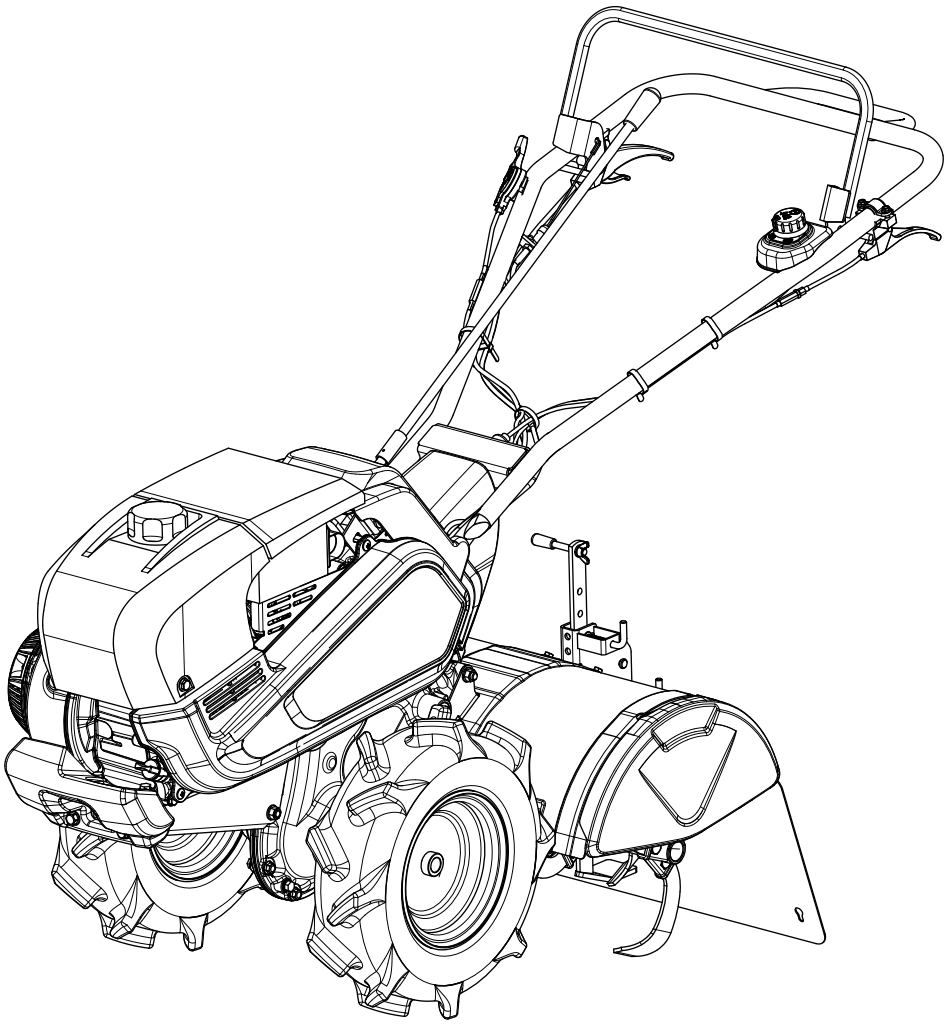
HONDA

耕うん機

FU700

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

このたびはお買いあげありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は本機の正しい取扱い方と簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書をいっしょにお渡しください。
・本書では安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、使用者がケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお、本機の品質・性能向上あるいは安全のために使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますのでご了承願います。

●本機の使用目的について

・本機はほ場での耕うん作業、推奨作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や安全装置の取外しなどの改造は行わないでください。

・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造した場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

本製品は安全性検査の認定を取得しています。

こんなとき、こんなことが知りたいとき、ここを見てください！

この取扱説明書は次のように構成されています。まず、**安全作業のために** からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで本機の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用前に 使用前に知っておかなければならないことは？

本機の**保証・サービス**などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称、操作レバー、装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた 本機を動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動、走行のしかた、自動車への積み降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた ほ場作業を行うには？

本機作業の基本操作を説明しています。作業機の条件や、ほ場条件にあった調整をして、上手な作業をしてください。

手入れのしかた 本機を長もちさせるには？

本機をいつも正常な状態に保つために手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守、点検してください。

長期格納のしかた 本機を１ケ月以上格納するときは？

本機を長期間格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったときは？

作業中のトラブルや不調、異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

本機に係る諸元表などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために ……3

ご使用前に ……17

1．保証とサービスについて …… 17
2．仕様（装備）について ……18
3．用語について ……18

各部のはたらき ……19

1．本機方向説明と各部の名称 ……19
2．運転装置の取扱い ……20
1. エンジンコントロール関係 ……20
2. 運転装置関係 ……21

運転のしかた ……25

1．運転前の点検……25
2．エンジンの始動と停止……26
1. エンジン始動のしかた ……26
2. エンジン停止のしかた ……27
3．発進・旋回・停車のしかた……28
1. 発進のしかた ……28
2. 旋回のしかた ……28
3. 停車のしかた ……29
4．自動車への積み降ろし……29
1. 自動車・アユミ板について ……30
2. 本機の取扱い ……30

作業のしかた ……31

1．作業前の準備……31
1. ロータリー爪の点検 ……31
2. ロータリー爪の取付けと作業状態
［ＪＲ型］……31
［ＪＲＭ型］ ……34
3. 尾ソリの調節 ……36
4. ハンドル上下レバーの調節 ……36
5. 作業機の取付け ……36
2．ほ場作業のしかた……37
1. ほ場への出入りのしかた ……37
2. 車輪幅について ……37
3. 作業に適した速度の選びかた ……38
4. 上手なほ場作業のしかた ……38

手入れのしかた ……39

1．定期点検整備……39
2．給油・注油のしかた……41
1. 燃料の補給 ……42
2. エンジンオイルの点検・交換 ……42
3. 変速機オイルの点検 ……43
4. 給脂箇所 ……43
3．各部の点検と掃除のしかた……44
1. エアクリーナーの掃除 ……44
2. 点火プラグの点検と掃除 ……45
3. リコイルスターターの掃除 ……46
4. 燃料チューブの点検 ……46
5. タイヤの点検 ……46
6. ベルトカバー内の点検と掃除 ……47
4．各部の点検と調整のしかた……47
1. 主クラッチの調整 ……47
2. エンジン回転調整ケーブルの調整 ……48
3. デフロックケーブルの調整 ……49
4. ハンドル上下ケーブルの調整 ……49
5. ボルト・ナットの点検 ……49

長期格納のしかた ……50

1. 本機の掃除と洗浄 ……50
2. エンジンの手入れ ……51
3. 格納 ……51
4. 再使用するときは ……51

不調時の処置 ……52

1．エンジン部……52
2．本機……53

付　　表 ……54

1．主要諸元……54
2．潤滑油について……55
3．付属部品一覧表……55

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ
1．安全作業のしかた ……5
⚠作業前に次のことを守りましょう！……5
⚠安全作業のポイント……6
⚠作業前の一般的な注意事項……7
⚠点検・整備および掃除をするときは……8
⚠エンジンを始動するときは……9
⚠移動をするときは…… 10
⚠自動車への積み降ろしをするときは…… 11
⚠ほ場で作業をするときは…… 12
⚠１日の作業が終わったら …… 14
⚠長期格納するときは…… 14
2．表示ラベルについて…… 15

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。
・なお、この項の安全作業の説明は**耕うん機全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので、よく読んで必ず守ってください。

⚠ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。

- ●酒気をおびた人
- ●妊娠している人
- ●16才未満の人
- ●指導者のいない運転未熟練者
- ●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない人

◆運転する人は健康に気をつけて適切な睡眠と休けいをとってください。

➡ 誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機を他人に貸す場合は取扱説明書もいっしょに渡して、安全な作業ができるよう説明してください。

◆本機の運転操作はよく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。

◆本書の内容が理解できない人や、子供には絶対運転させないでください。

➡ 借りた人が不慣れなため思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。

➡ 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作したり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠安全作業のポイント

●取扱説明書、本機のラベルをよく読んでから運転してください。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所に本機を置きます。
●エンジン、マフラー、燃料タンク周りを掃除します。
●燃料チューブを点検します。
●給油・点検はエンジンが冷えているときに行います。
●各部の締付け、セットピンの脱落はないか確認します。
●燃料補給時は火気を近づけるのは厳禁です。
●クラッチ、レバー関係が働くか点検します。
●取外したカバー類は全て取付けます。
●改造は厳禁です。
●タイヤのエアチェックを行います。

エンジン始動

●各操作レバーは取説に従い始動時の位置にします。
●本機の周囲から人を遠ざけます。
●始動グリップの引き方向に障害物がないことを確認してください。
●屋内やハウスでの始動は、窓や戸を開けて換気をします。

自動車への積み降ろし

●自動車は荷台に天井のない車を使用します。
●アユミ板は強度、幅、長さ、すべり止め、フックのあるものを使用します。
●アユミ板は自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認します。
●周囲を確認し、本機の周りに人を近づけるのは厳禁です。
●積込みは前進、降ろすときは後進で低速で行います。
●アユミ板の上でのクラッチ操作や変速操作は厳禁です。

移　　動

●タイヤのセット幅を広げて本機を安定させます。
●発進は周囲を確認して行います。
●ロータリーなどの作業機を回転したままの走行は厳禁です。
●発進、停止、旋回は低速で行います。
●人や物を本機にのせるのは厳禁です。
●公道および夜間の移動は自動車にのせて行います。

狭い農道、不整地、傾斜地の移動

●スピードを落として走行します。
●下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使います。
●傾斜地では主クラッチを切ったり、変速レバーを《中立》にするのは厳禁です。
●車を避けるとき、端に寄りすぎないようにします。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所の走行は避けます。

停車・駐車

●平坦な場所でエンジンを停止します。
●傾斜地の駐車は厳禁です。

ほ場作業　ほ場の出入り

●低速であぜに対して直角に出入りします。
●高あぜ、溝越え、急傾斜は隙間がなく、すべらない処理のしてあるアユミ板を使用します。
●上がるときは前進、降りるときは後進で足元を確認して行います。
●ロータリーなどの作業機を回転させたままの出入りは厳禁です。
●あぜがくずれないか確認しゆっくり出入りします。

ほ場での作業

●人を本機のそばに近づけるのは厳禁です。
●旋回は周囲、足元を確認して行います。
●あぜ際での作業は枕地を十分とって旋回します。
●急傾斜地での作業は厳禁です。
●後進するときはエンジン回転を下げて背後の障害物を確認しゆっくりと後進します。
●後進するときはハンドルを持ち上げてロータリー爪を地面から浮かせます。
●後進はハンドルが持ち上がるのでしっかり押さえて後進します。
●疲れを感じたら無理に作業を続けず休憩をします。
●本機はライトが付いていないので夜間や暗い所での作業は厳禁です。
●水田での使用は厳禁です。

作業途中の点検

●運転直後のエンジン、マフラーなど高温部に触れるのは厳禁です。
●ロータリーなどに巻付いた草や土を取除くときはエンジンを停止して行います。
●作業機の脱着は平坦な場所で行います。
●取外したカバーはすべて取付けます。

格　　納　1日の作業が終わったら

●平坦な場所に置きエンジンを停止します。
●高温部が冷えてからエンジン、マフラー、燃料タンク周りを掃除します。

長期格納

●燃料コックレバーを「止」にし、キャブレター内の燃料を抜取ります。
●タイヤに輪止めをします。
●カバーはエンジンが冷えてからかけます。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆本機はほ場でのロータリー耕うん作業、推奨作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。

➡ 思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機や作業機の上に人や物を乗せないでください。人を近づけないでください。

◆共同作業者がいるときは、互いに注意してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆本機は改造しないでください。

➡ 改造すると本機の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆本機を使用する前後に点検を行い、異常箇所は直ちに整備してください。

◆シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。

➡ 整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

●換気が不十分な所では暖機運転や作業は行なわないでください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆本機・作業機の点検・整備・掃除は平坦な場所でエンジンを停止してから行なってください。

➡ 傾斜地では本機が動きだし思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠危険

◆給油、注油、点検時はエンジンを停止させてください。エンジン回転中やエンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。

◆燃料補給は火気のない所で行なってください。くわえタバコなどは厳禁です。

燃料を補給したときは燃料給油キャップを締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

●エンジン始動前に給油、注油、各部の点検を行なってください。

➡ 燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。

⚠警告

◆各部のボルト・ナットのゆるみ、セットピンの脱落、損傷はないか確認してください。

●クラッチ、レバー関係などの操作部は確実に働くように調整してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠危険

◆エンジン、マフラー、燃料タンク周りにワラクズやゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取除いてください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠注意

◆点検整備に必要な工具類は適正な管理をし、正しく使用してください。

◆本機には点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。

➡ 整備不良で事故を引起こすおそれがあります。

⚠注意

◆点検・整備などで外したカバーなどは全て取付けてください。

●カバーは正しく取付けてください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠危険

◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

➡ ショートしてヤケドや火災の原因となります。

⚠警告

◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。

●タイヤの空気圧は入れすぎないでください。

◆タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）

➡ タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と、タイヤが破裂し死傷事故につながることがあります。

⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆始動する前に周囲を確認し、本機の周囲から人を遠ざけてください。

➡ 人が近づくと傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内やハウス内などでの始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠警告 ◆主クラッチの《切》、変速レバーの《中立》を確認してください。

◆始動は正しい姿勢で行なってください。

- 変速レバーが《中立》になっているか手で動かして確認してください。
- 足場の不安定な場所での始動は行わないでください。
- 周囲を確認し、合図してから始動してください。
- 始動グリップの引き方向に障害物がないことを確認してください。

➡ 変速やクラッチが入っていると本機が急に動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆暖機運転は主クラッチを《切》、変速レバーを《中立》にして、平坦な場所で行なってください。

➡ 本機が動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠移動をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆発進するときは本機の周りから人を遠ざけて、低速で発進してください。 ●前後左右を確認し、後進するときは屋内の支柱など背後に障害物がないことを確認して行なってください。 ●ロータリーなどの作業機を回転させたまま走行しないでください。 ➡ 傷害事故を引起こす原因となります。	⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●車を避けるとき、端に寄りすぎないでください。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。 ●雨天、雨あがりのときは低速で慎重に移動してください。 ➡ 路肩がくずれ、横転事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆タイヤのセット幅を広げて本機を安定させてください。 ◆急発進、急停止、急旋回はしないでください。 ●移動は歩くスピードで、不整地は低速で行なってください。 ●旋回するときは低速で行なってください。 ➡ 転倒事故を引起こすことがあります。	⚠警告 ◆傾斜地では主クラッチを操作しないでください。 ◆傾斜地では変速レバーを操作しないでください。 ●下り坂では低速でエンジンブレーキを使用して走行してください。 ➡ エンジンブレーキがきかなくなり事故の原因となります。
⚠警告 ◆人や物を本機にのせないでください。 ●道のりが遠くても、その他どんな場合でも人を作業機の上にのせないでください。 ◆一般公道での走行はできません。自動車にのせて移動を行なってください。 ◆作業灯が装備されていないので夜間の作業および移動は行わないでください。 ➡ 傷害事故の原因となることがあります。	⚠警告 ◆停車、駐車をするときは平坦な場所に置き、エンジンを停止してください。 ●傾斜地には駐車しないでください。 ➡ 本機が動き出して事故の原因となります。

⚠自動車への積み降ろしをするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告

- ●自動車は荷台に天井のない車を使用してください。
- ●荷台から本機がはみ出さない自動車を使用してください。
- ●自動車は変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車) に入れ、駐車ブレーキをかけ、輪止めをします。
- ●自動車への積み降ろしのときは、自動車のエンジンを止めてください。

➡ 思わぬ事故を引起こします。

⚠警告 ◆アユミ板は強度、 幅、 長さ、 すべり止め、 フック付き、 ロータリー爪が引掛からないものを使ってください。

- ●本機の質量に耐える強度のもの（金属製）を使用してください。
- ●幅がタイヤ幅以上で、長さが荷台高さの４倍以上あるすべり止め付、フック付のものを使用してください。

➡ アユミ板が外れたりして転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆アユミ板の上では主クラッチを切らないでください。

- ●途中で操作する必要がないよう左右位置や平行を確認し、低速で行なってください。
- ●ロータリー爪・尾輪などをひっかけないようにしてください。

➡ 進路変更すると急旋回して転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆荷台にアユミ板を平行にかけてください。

- ●アユミ板は荷台に対して真っ直ぐにかけてください。
- ●荷台にかけた端が外れないようにフック付のアユミ板を使用してください。
- ●アユミ板にのせる前にデフロックレバー《入》にし、アユミ板の上ではデフロックレバーを操作しないでください。
- ●積込みは前進、降ろすときは後進で低速で行なってください。
- ●本機の周りに人を近づけないでください。
- ●ロータリー装備時はロータリー爪が回転していないことを確認してください。

➡ バランスがくずれて転倒事故を起こすことがあります。

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆急傾斜、溝越え、高あぜのあるほ場への出入りは隙間がなく、すべらない処理がしてあるアユミ板を使ってください。

◆あぜ越えは低速であぜに対して直角に出入りしてください。

●上りは前進、下りは後進で足元を確認しながら低速で行なってください。

●あぜがくずれないか確認しゆっくり行なってください。

➡ バランスをくずしたりして転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆ロータリーなどを回転させたままほ場への出入りをしないでください。

●耕うん時以外はロータリーなどの作業機を停止してください。

➡ 思わぬ事故となることがあります。

⚠警告 ◆作業中は本機のそばに人を近づけないようにし、わき見運転や手ばなし運転をしないでください。

◆いつでも主クラッチが切れる姿勢で運転してください。

➡ 傷害事故の原因となります。

⚠警告 ◆旋回するときは周囲や足元を確認し、あぜの上にあがったり、土手ぎりぎりで旋回しないでください。

●あぜ際での作業は枕地を十分にとって余裕をもって旋回してください。

●旋回時はロータリー爪を回転させないでください。

➡ 傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆後進するときはハンドルを持ち上げてロータリー爪を地面から浮かせてください。

●リアシールドがロータリー爪に触れないようにしてください。

➡ ロータリー爪が回転したときに、リアシールドを巻き込んで、リアシールドが破損する恐れがあります。

⚠警告 ◆後進するときはエンジン回転を下げて背後の障害物の位置を確認し、ゆっくりと行なってください。

●ハンドルがはね上がらないようにしっかりとハンドルを握って低速で後進してください。

➡ 後進するときは車輪の回転でハンドルがはね上がり、思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆ロータリーなどに巻付いた草や土を取除くときやロータリー爪の交換をするときは、平坦な場所でエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

➡ 巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラスなどを取除いてください。

◆作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、損傷を調べてください。
損傷したまま再始動しないでください。

➡ 回転しているロータリー爪に異物が当たると強い力で異物が飛び散り、傷害事故を起こしたり、また損傷したままの本機を使用すると思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆夜間作業を行わないでください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆急傾斜地では作業をしないでください。

➡ 転倒事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆作業途中で点検するときは高温部に触れないでください。

●点検、掃除はエンジンを停止し、高温部は冷えるまでは直接触れないでください。

➡ ヤケドすることがあります。

⚠警告 ◆ハウスや小屋の中で作業するときは背後や支柱際の障害物を確認しながら行なってください。

●支柱やカモイに頭を打ったりハンドルを引っかけたりしないようにしてください。

●支柱際の作業での旋回はハンドルを壁と反対側の広い方に回して旋回してください。

➡ 本機と支柱の間にはさまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

⚠注意 ◆取外したカバーは全て取付けてから作業を開始してください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠危険 ◆作業が終了したら平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。

●高温部が冷えてからエンジン・マフラー・燃料タンク周りのゴミなどを除去・掃除を行なってください。

●掃除後指定箇所に給脂してください。

➡ 火災の原因となることがあります。

⚠危険 ◆カバーをかける場合はマフラーやエンジンが冷えてから行なってください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠長期格納するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆各部を水洗いして平坦なところで本機を安定させて格納してください。

●故障箇所、ロータリー爪の摩耗があれば早目に修理、交換してください。

●ボルトやナットがゆるんだ状態であれば直ちに締めつけてください。

●タイヤに輪止めをし、変速を移動《１》に入れてください。

➡ 思わぬ事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

●１年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。

◆燃料を抜取ってください。

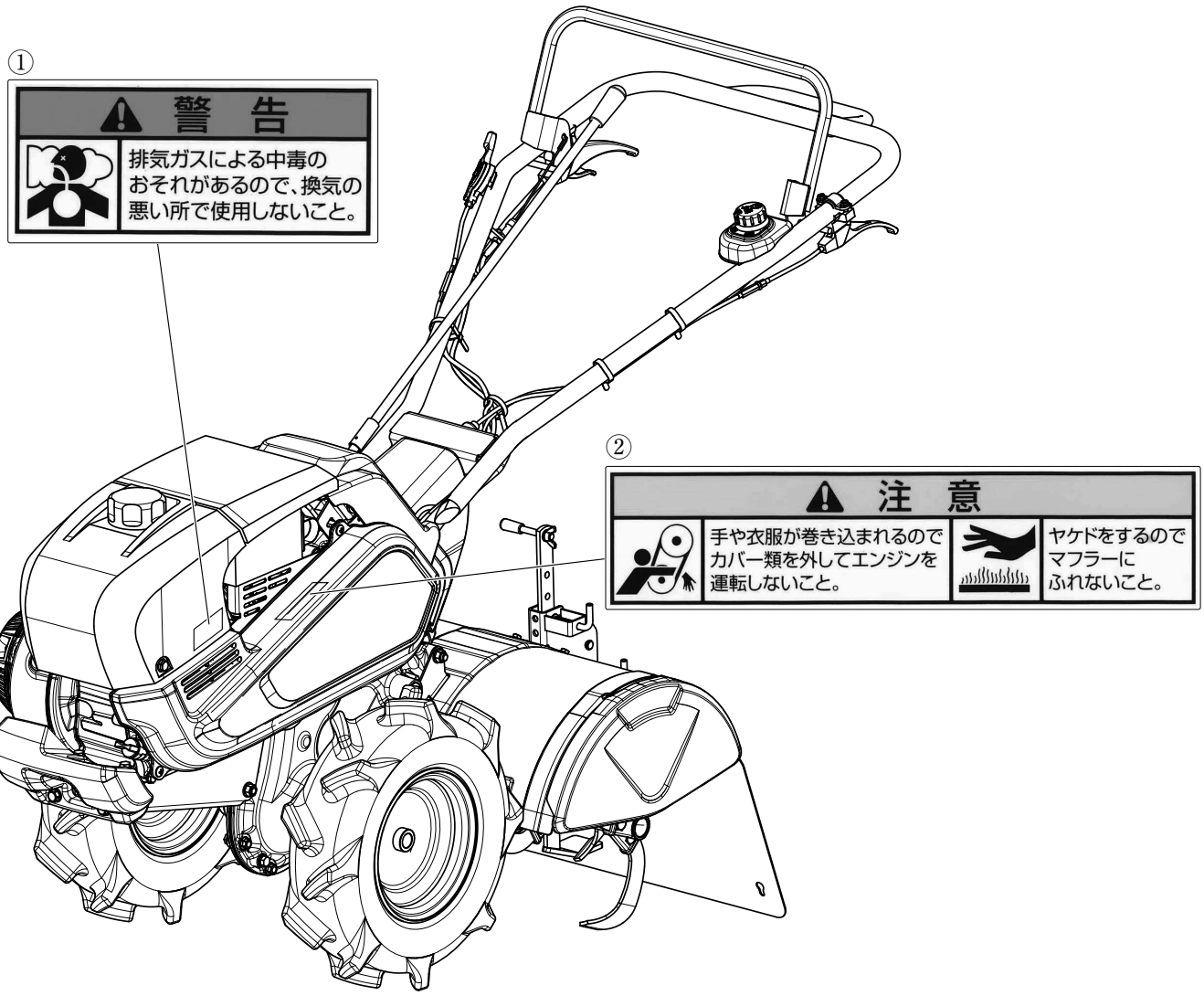
●燃料腐食でキャブレター内部を腐食させるので燃料コックレバーを《止》にし、燃料コックレバー下側のドレンつまみからキャブレター内の燃料を抜取ってください。
その際、燃料は適切な容器で受けてください。

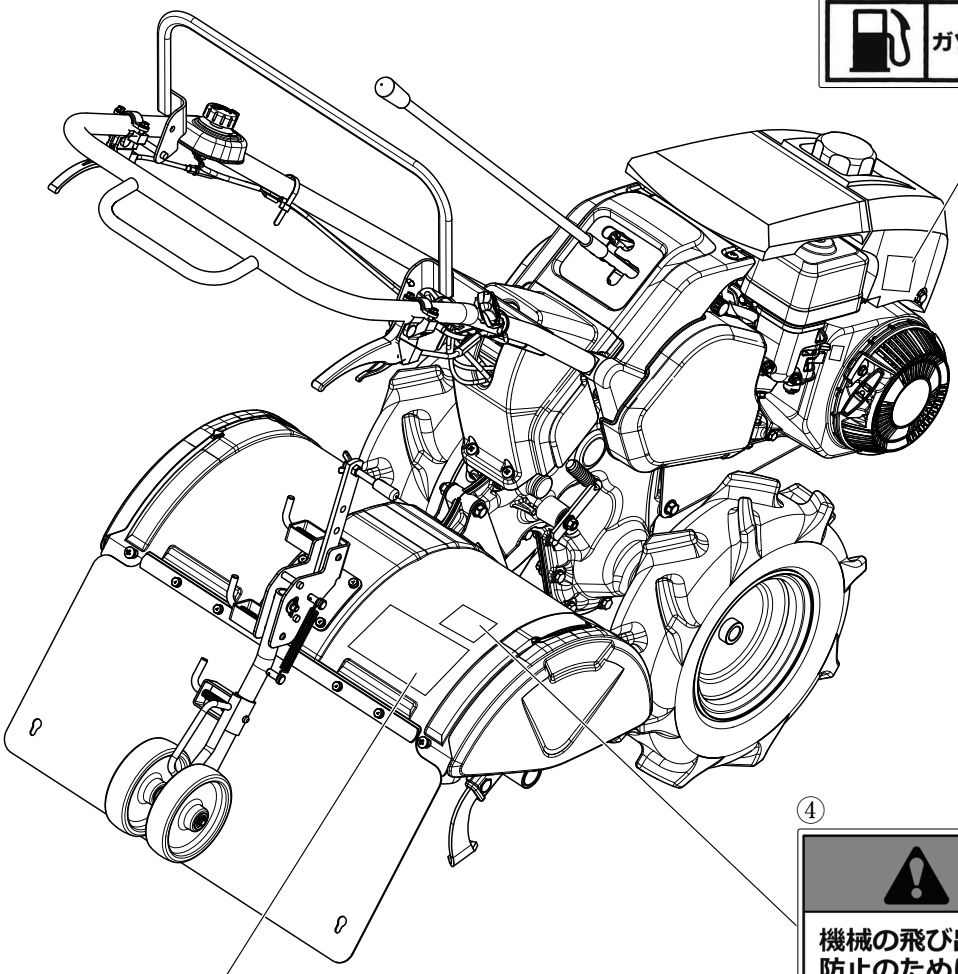
2. 表示ラベルについて

本機には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよく読んで守ってください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

また、本機に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」**に注文して購入し貼り替えてください。





③

警　告

火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
- 給油時にはエンジンを停止すること。
- 給油口に火を近づけないこと。

火気厳禁

ガソリンを使用して下さい。

④

警　告

機械の飛び出しによる傷害事故防止のために

- 耕うん爪はロータリ軸の回転方向に合わせて組み付けること。

OMR73412000

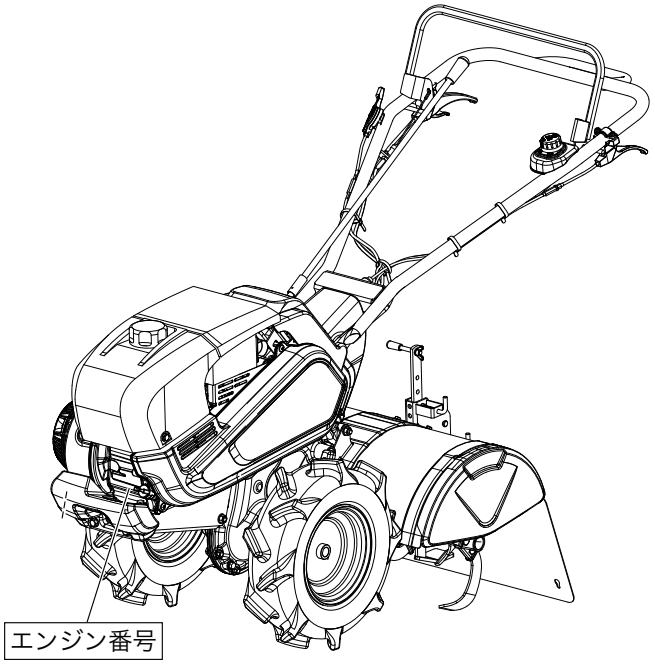
⑤

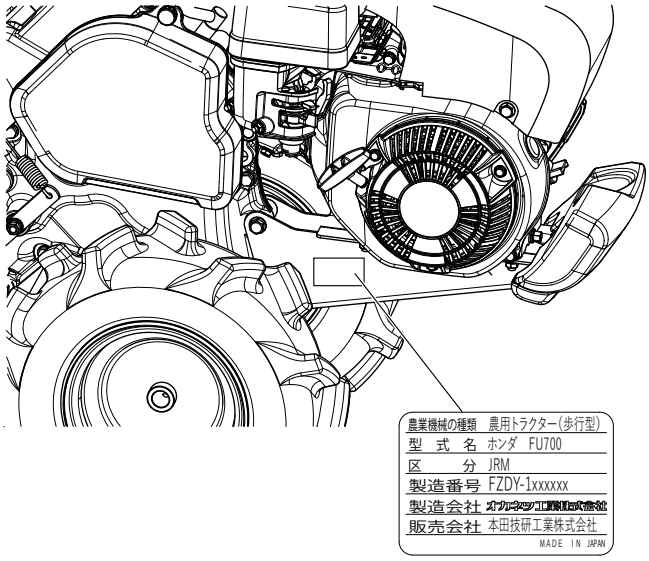
危　険	警　告	
●エンジンがかかっている時は耕うん爪に手や足を近づけないこと。	●後進する時は、後方に障害物がないことを確認すること。	死傷事故防止のため、取扱説明書を読み、理解して正しい取扱いをしてください。 ● 傾斜地では中立位置にしないこと。 ● エンジン始動時は中立位置で、主クラッチを切ること。 ● 発進・停止・旋回は低速で行うこと。 ● 燃料補給・給油・エンジンの整備は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行うこと。 ● 清掃・点検・整備・尾輪調整及びロータリ等の草の巻付や土を除去する時は、エンジンを停止すること。

ご使用前に

1．保証とサービスについて

・本機には保証書が添付されていますので、ご使用前によくお読みください。
・本機のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店**」にご相談ください。その際「**型式名・区分**」・「**機体番号**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。





本機の使用目的について

・本機は**ほ場でのロータリー耕うん作業、推奨作業機を装着しての農作業にご使用ください**。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告

◆本機を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆本機を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

・お買いあげの本機の商品名をお確かめのうえ、お間違えのないようにお読みください。
・お買いあげの本機の型式名と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

型式名	仕様	エンジン最大出力	ロータリー爪	耕幅（㎜）	ロータリーカバー
FU700	JR	4.3kW (5.8PS)	ナタ爪	550	固定式
	JRM		ナタ爪＋土揚爪	正 264・550　逆 314・540	開閉式

3．用語について

・マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

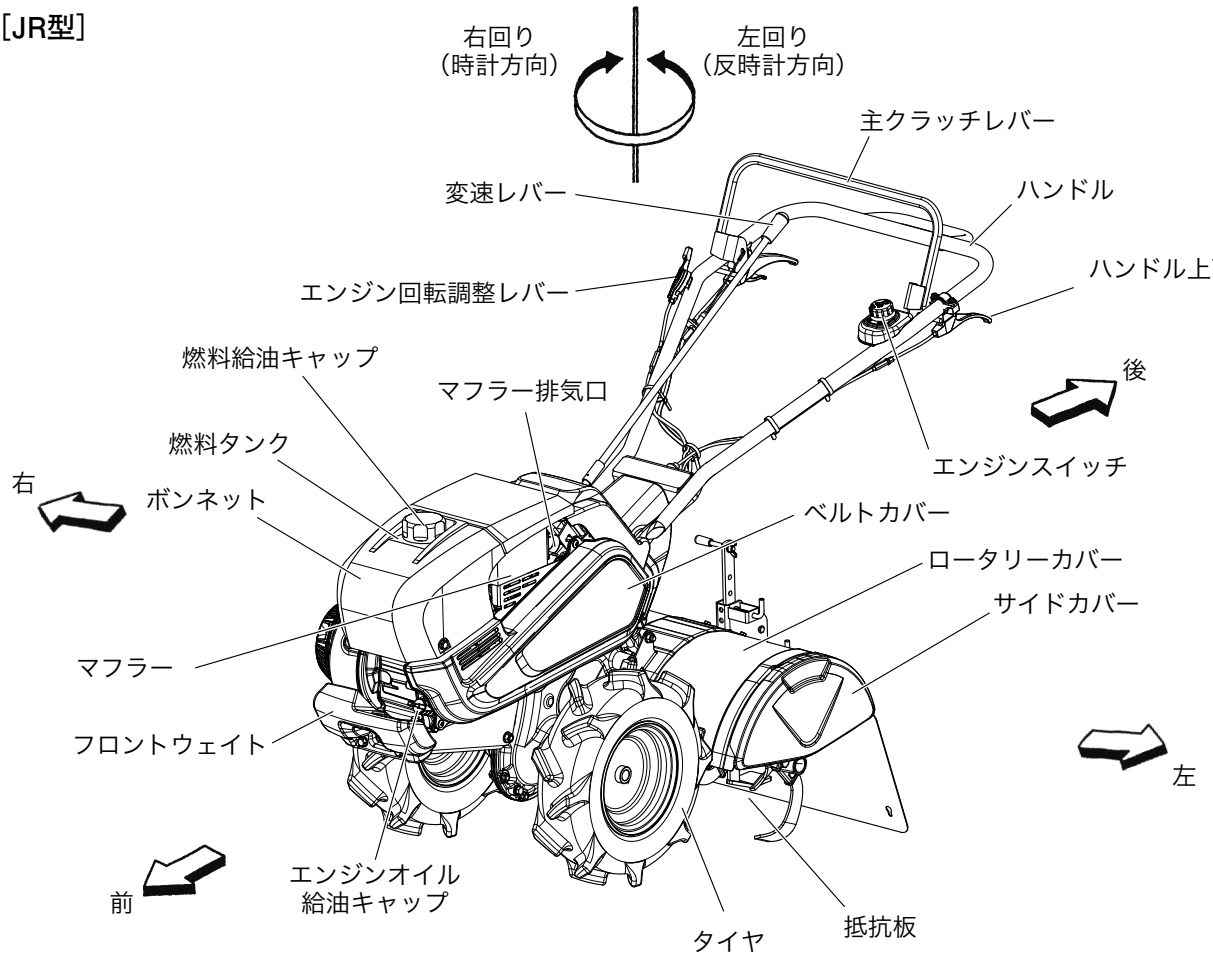
・ ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

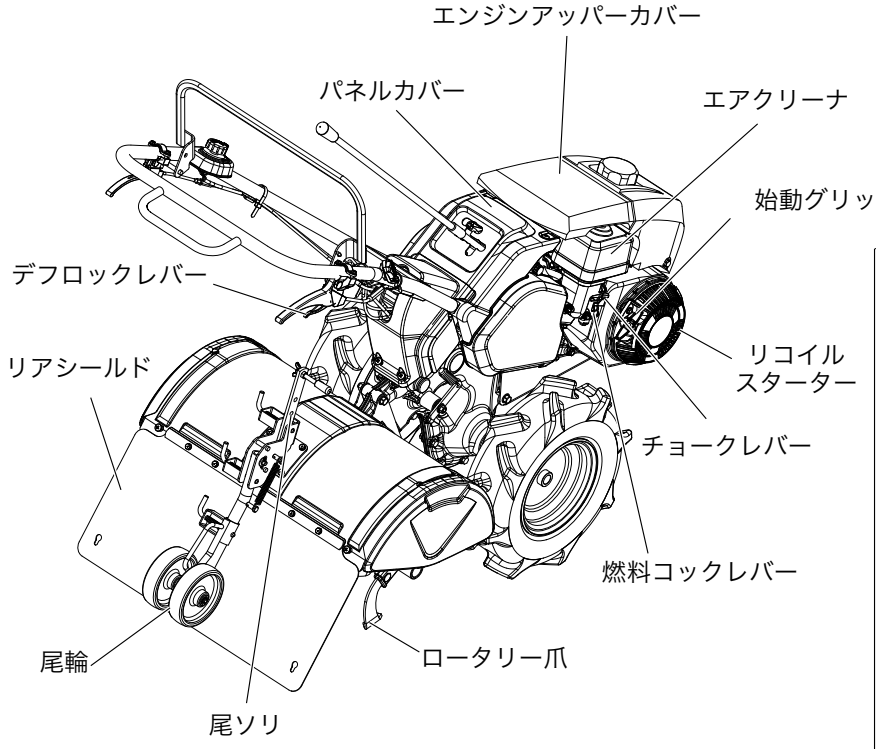
・ **取扱いのポイント** ……本機の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になります。

各部のはたらき

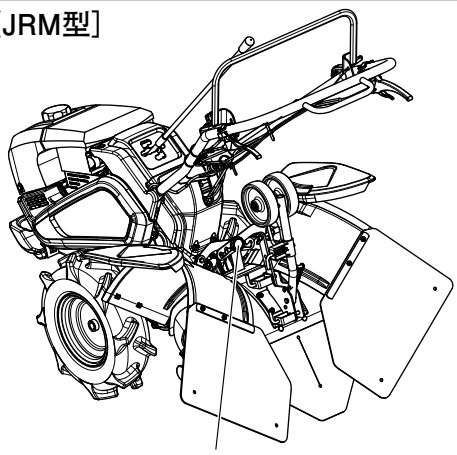
1．本機方向説明と各部の名称

［JR型］





［JRM型］

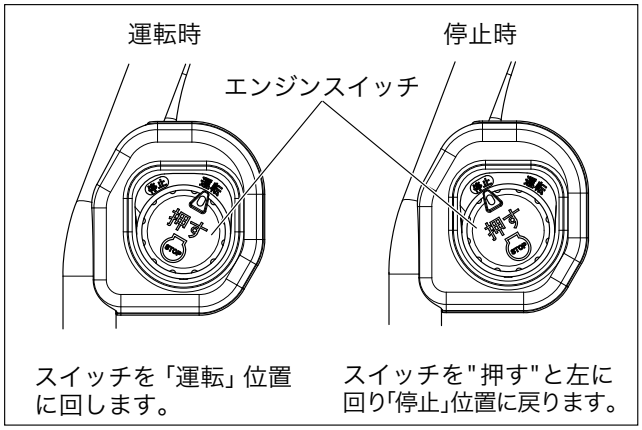


2．運転装置の取扱い

1．エンジンコントロール関係

❶ エンジンスイッチ

エンジンを始動するときは《**運転**》に回し、停止するときはスイッチを押します。



取扱いのポイント

●緊急時にエンジンを停止させたい場合はエンジンスイッチを押してください。

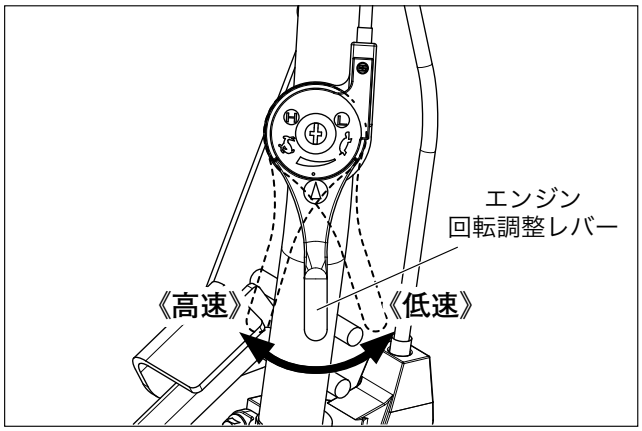
❷ エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。

・右に操作すると《**低速**》になります。

・左に操作すると《**高速**》になります。

・エンジン始動時は《**中間**》にします。

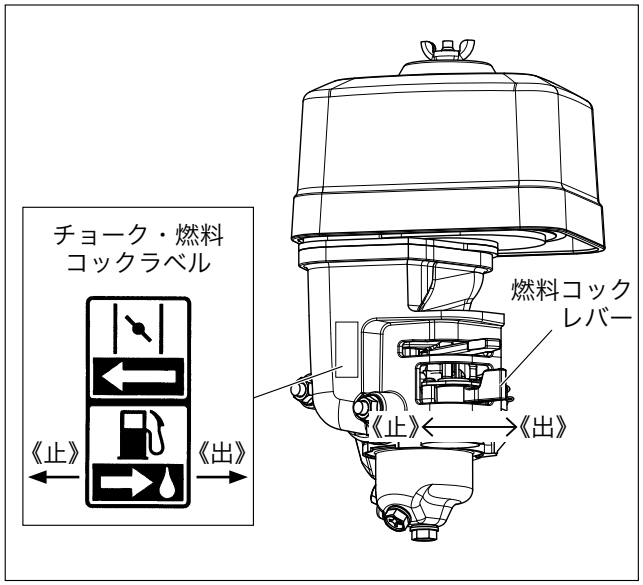


取扱いのポイント

●エンジン回転調整レバーを無理に操作すると故障の原因となります。

❸ 燃料コックレバー

タンク内の燃料を出したり、止めたりするときに操作します。



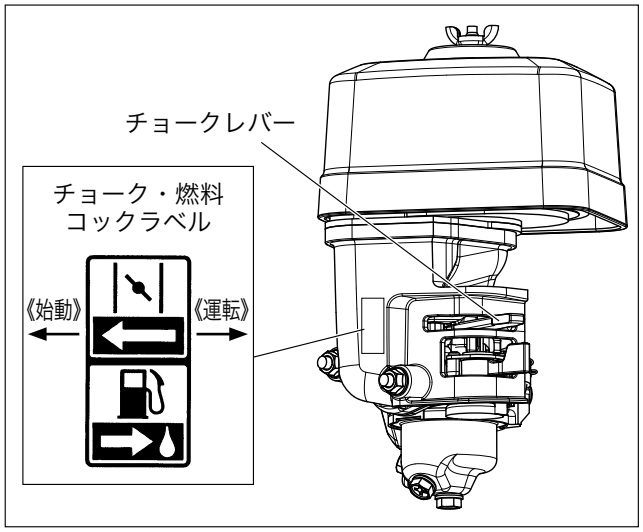
❹ チョークレバー

エンジンを始動するときに使用します。

エンジンを始動するときはチョークレバーを《**始動**》にします。

エンジンが暖まっているとき（運転停止直後の再始動時）はチョークレバーを《**運転**》で始動します。

エンジンが始動したらエンジンの調子をみながらレバーを《**運転**》に戻します。(エンジンが暖まっているときでもエンジンが始動しない場合は、チョークレバーを《**始動**》にしてください。)



❺ 始動グリップ

エンジンを始動するときに使用します。

始動グリップの握りを引いてエンジンを始動します。

取扱いのポイント

- **ロープを引き出せないところまで引ききると故障の原因となることがあります。**
- **始動グリップ内部を分解しないでください。内部のスプリングが飛び出す恐れがあり危険です。**
- **始動グリップを引くときは主クラッチレバーを《切》にし、変速レバーを《中立》にしてください。**
- **運転中は始動グリップを引かないでください。**
- **周囲に人がいないことを確認してから始動してください。**
- **後方に障害物がないことを確認して始動してください。**

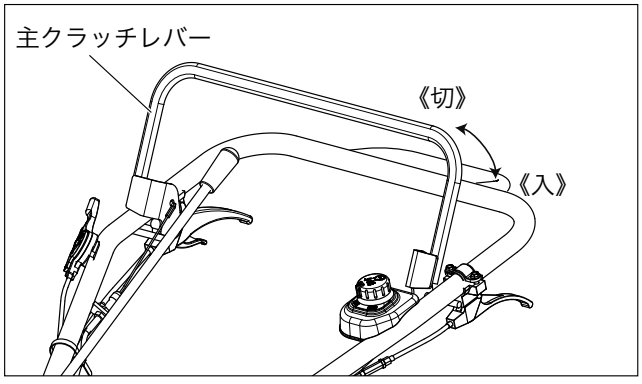
2. 運転装置関係

❶ 主クラッチレバー

車軸（タイヤ）およびロータリー回転軸（ロータリー爪）の動力を《**入**》《**切**》するときに操作します。

クラッチ《**入**》操作は主クラッチレバーをハンドルと共に握ります。

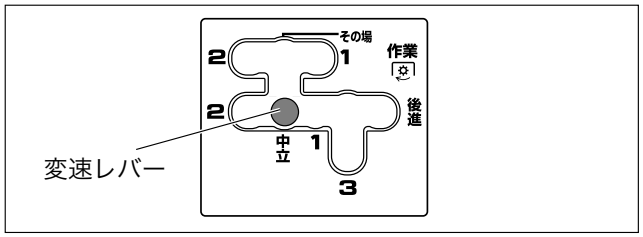
クラッチ《**切**》操作は主クラッチレバーから手を放します。



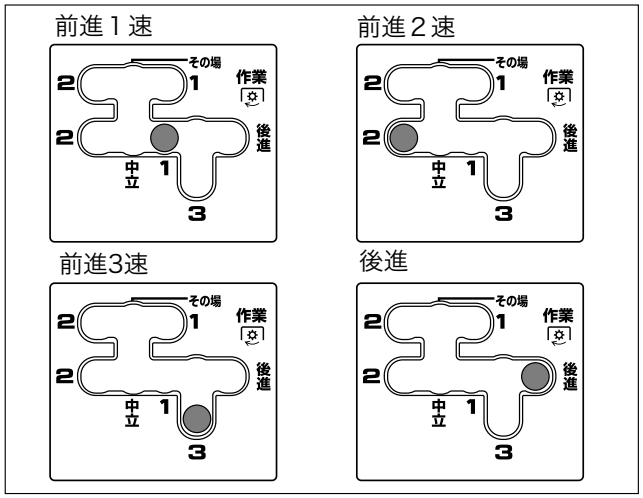
❷ 変速レバー

［JR型］

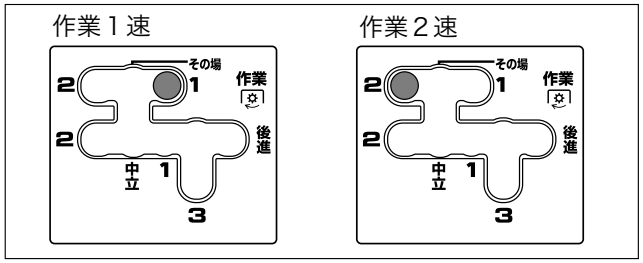
・中立（ニュートラル）



・移動（タイヤのみ駆動）

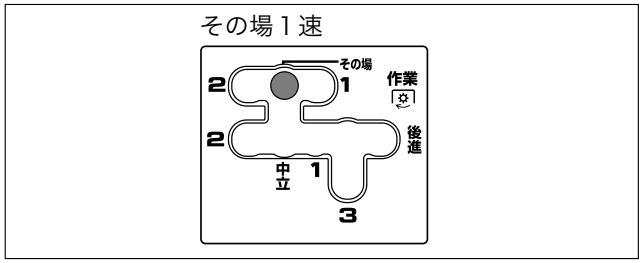


・作業（タイヤ＋ロータリー駆動）



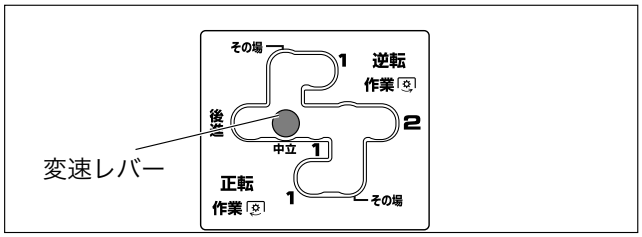
・その場（ロータリーのみ駆動）

…ロータリー軸（ロータリー爪）だけが回転し、車軸（タイヤ）は止まったままです。耕うん始め等に使用します。

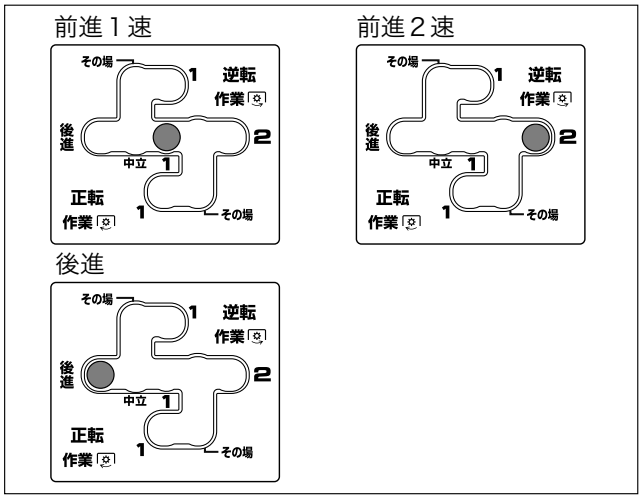


［JRM型］

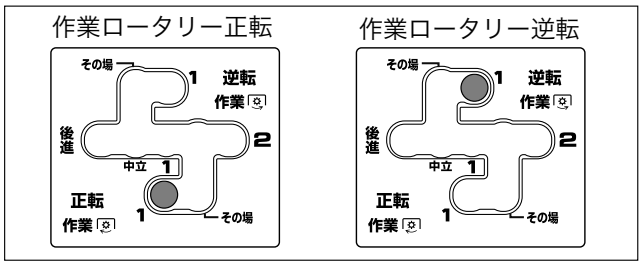
・中立（ニュートラル）



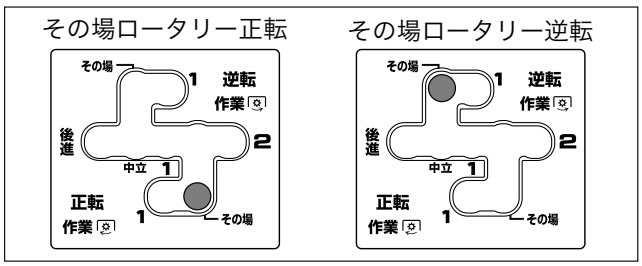
・移動（タイヤのみ駆動）



・作業（タイヤ＋ロータリー駆動）



・その場（ロータリーのみ駆動）



取扱いのポイント

- **変速レバーを操作するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。**
- **エンジンを始動するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。**

❸ デフロックレバー

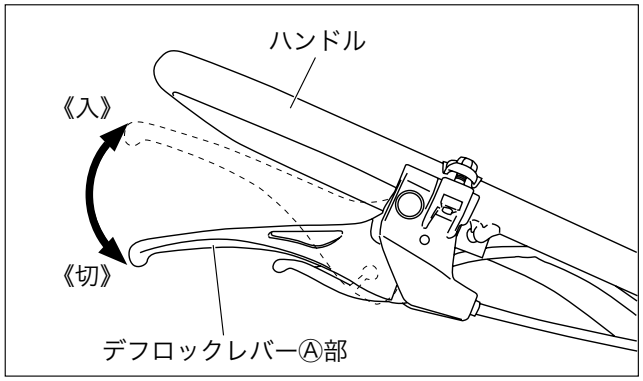
⚠警告 傷害事故防止のために

◆傾斜地や坂道走行および自動車への積降ろし時はデフロックレバーを《入》にし、ハンドルをしっかり持って行なってください。

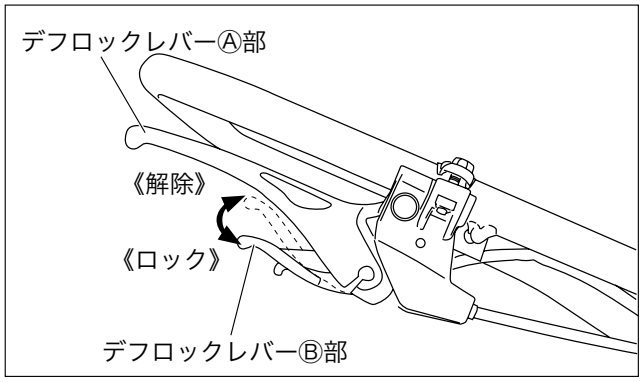
◆走行中および耕うん作業中はデフロックレバーの《入》《切》操作をしないでください。

・デフロックレバーを《**入**》にすると左右のタイヤが同じ回転になり直進性が良くなります。

・デフロックレバーを《**切**》にすると旋回しやすくなります。



・デフロックレバーはⒶ部を握ると《**入**》の状態でロックされます。《**切**》にするときはⒷ部を一度握ってから放します。



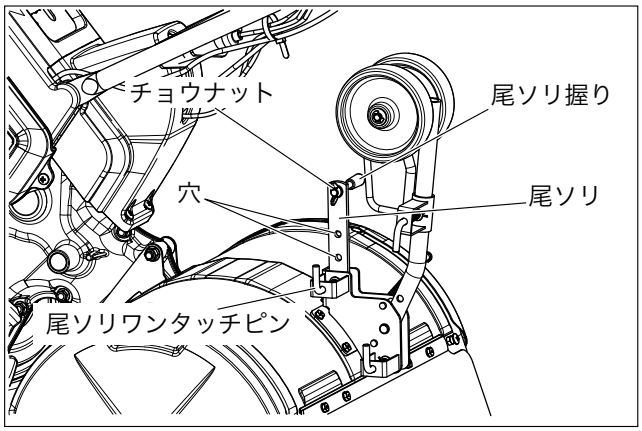
❹ 尾ソリ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆尾ソリ・尾輪の調節・脱着は平坦な場所で、エンジンを停止して行なってください。

尾ソリを上下させることで耕うん深さを４段階で調節できます。

・尾ソリワンタッチピンを引っ張り、
　尾ソリを引上げる……深くなる
　尾ソリを押下げる……浅くなる
・深さが決まれば、尾ソリワンタッチピンを元の位置に戻し、尾ソリの穴部にピンをかみ合わせて固定します。
・尾ソリ握りのチョウナットをゆるめて握りを外せば尾ソリは下側に外れます。

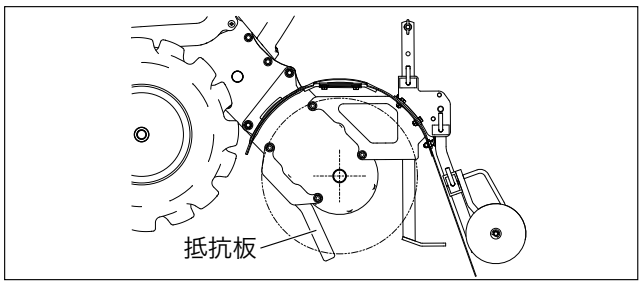


❺ 抵抗板

⚠警告 傷害事故防止のために

◆正転作業時は、必ず抵抗板を使用してください。本機が前方へ飛出すことがあります。

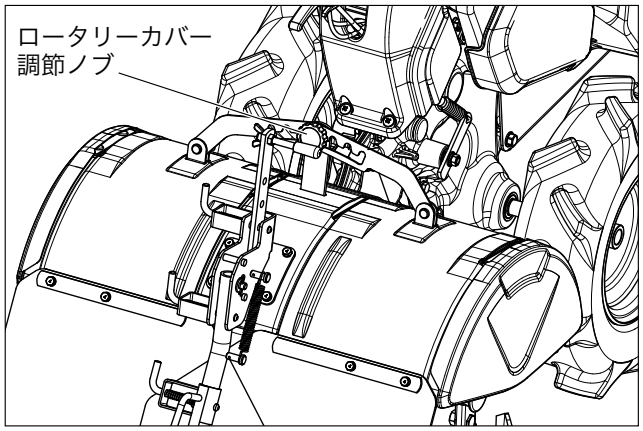
抵抗板は耕うん作業時に本機が前方へ飛び出すのを低減します。



❻ ロータリーカバー調節ノブ［JRM型］

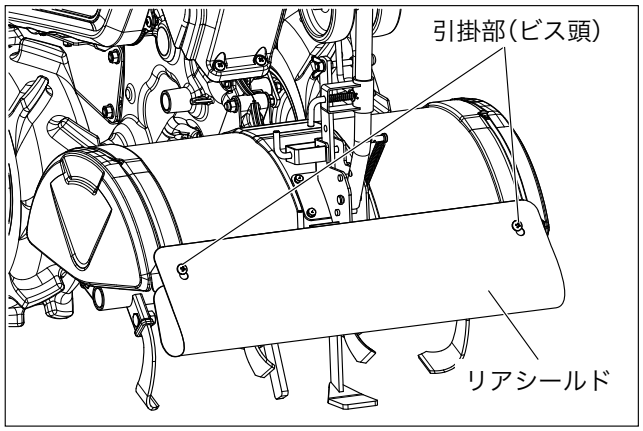
作業にあわせロータリーカバーの開閉を行います。

・ロータリーカバー調節ノブをゆるめロータリーカバーを持ち上げ調節します。



❼ リアシールド［JR型］

作業機装着での作業、または洗車・点検をするときは、リアシールドの穴２箇所をビス頭部に掛けて行います。通常耕うん作業または、簡易うね立て作業はリアシールドを下して行います。



❽ ハンドル上下レバー

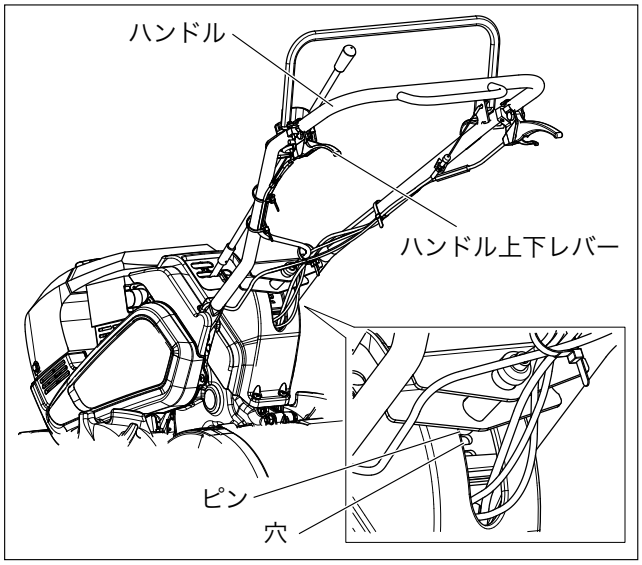
⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドル上下高さの調節は、エンジンを停止し、ハンドルから手を離しても本機が安定している状態（ロータリーが回転しない状態）にして行ってください。

ハンドルの高さを、使用する人の体格や作業の種類に上下にあわせて調節するときに使用します。

・ハンドル上下レバーを握ってハンドルを上下へ動かします。

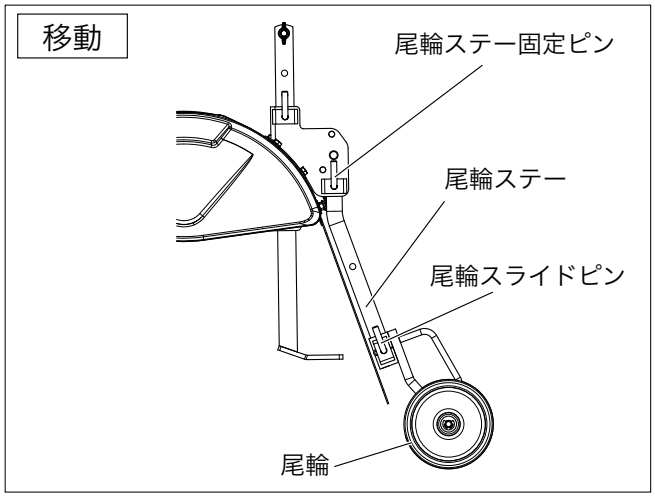
・セットしたい高さでレバーを離し、ピンと穴が合えばセット完了です。



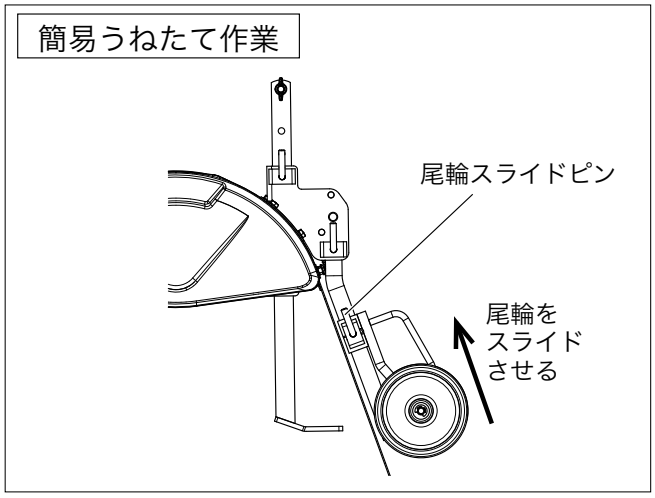
❾ 尾輪

耕うん作業、簡易うね立て作業、移動をワンタッチで切り替えることができます。

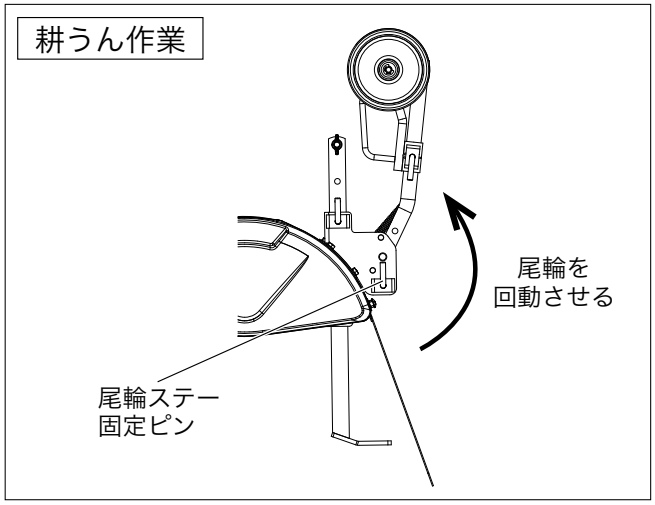
・尾輪ステーの下側の穴に尾輪スライドピンを固定する。



・尾輪ステーの中間の穴にスライドピンを固定する。



・尾輪ステーを上方に回転して固定する。



運転のしかた

1．運転前の点検

安全作業のために毎日の運転前に「**運転前の点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気に近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料給油キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料チューブに劣化や傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し、傷や漏れがあれば交換してください。

「**運転前の点検表**」

点検箇所			処置
運転前に	エンジンオイルの量	・油面が注入口の口元いっぱいにあるか。	・油面が注入口の口元いっぱいになるまで補給する。(42ページ参照)
	燃料タンク	・作業に必要な燃料があるか。	・無鉛ガソリンを補給する。(42ページ参照)
	エアクリーナー	・ろ過部は汚れてないか。	・掃除する。
	リコイルスターターの吸気口	・吸気口の目詰まりはないか。	・掃除する。(46ページ参照)
	燃料チューブ	・燃料漏れはないか。 ・劣化してないか、また傷はないか。 ・継手部のクランプはゆるんでないか。	・チューブを交換する。(46ページ参照) ・クランプを交換してしっかりと固定する。
	エンジン、マフラー、燃料タンク周囲	・ワラクズなどのゴミがたまってないか。	・掃除する。
	ロータリー爪	・ロータリー爪が確実に固定されているか。 ・ロータリー爪が摩耗していないか。	・取付部を締付ける。 ・ロータリー爪を交換する。(31～34ページ参照)
	各部の給脂	・油切れはないか。	・適量の給脂をする。(43ページ参照)
	抵抗板	・泥・草などが溜まっていないか。	・溜まっていれば泥・草などを取除く。(23ページ参照)
	変速レバー	・操作が重くないか。	・適量の給脂をする。(43ページ参照)
	ベルトカバー	・ベルトカバーの内に、泥・草・石などが溜まっていないか。	・溜まっていれば泥・草・石などを取り除く。(47ページ参照)
エンジンを始動して	主クラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。(21ページ参照)
	エンジン回転調整レバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。(20ページ参照)
	エンジンスイッチ	・エンジンスイッチを押したときエンジンが停止するか。	・異常箇所を調べ処置する。(20ページ参照)

2．エンジンの始動と停止

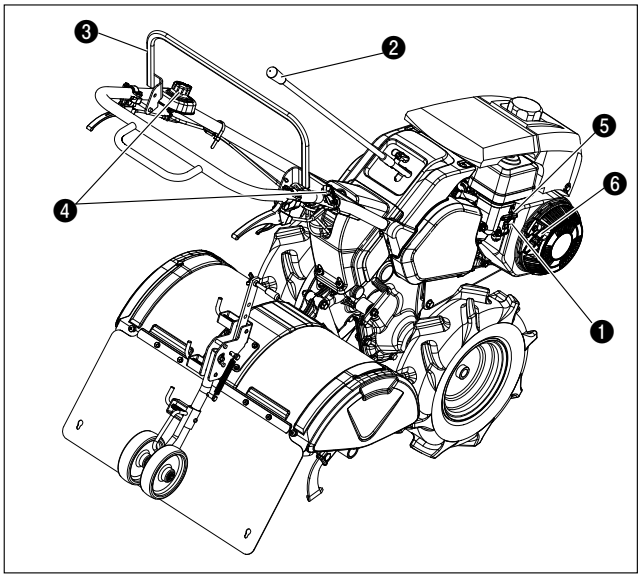
⚠警告 傷害事故防止のために

◆本機を平坦な広い場所に置き、マフラー、マフラー排気口付近の燃えやすいものは取除いてください。
◆ハンドルを離しても本機が動かないようにロータリーの爪部または尾輪を接地させます。
◆エンジンを始動するときは変速レバーを《中立》にし、主クラッチレバーを《切》にしてください。
◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。

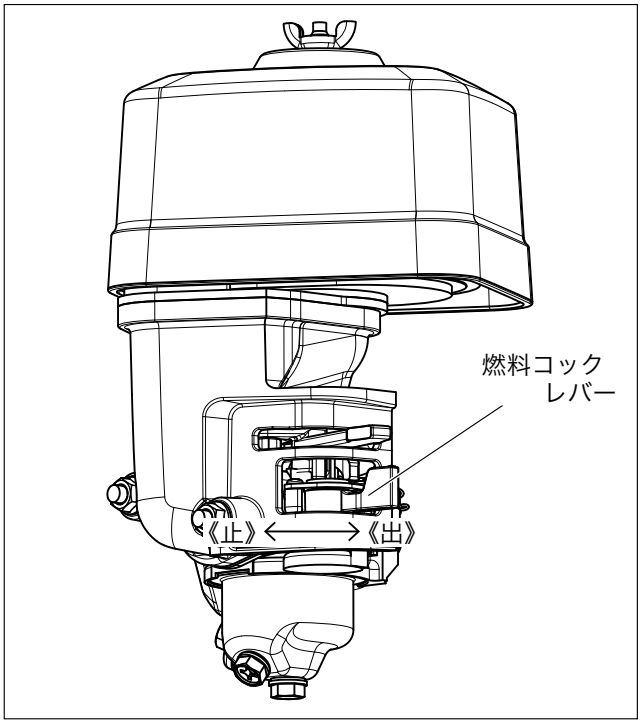
⚠注意 ヤケドや傷害事故防止のために

◆点検などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆マフラーやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「ヤケド」をします。

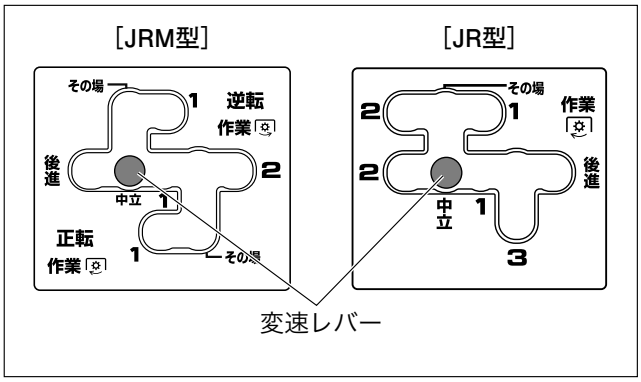
1．エンジン始動のしかた



❶ 燃料コックレバーを《**出**》にします。



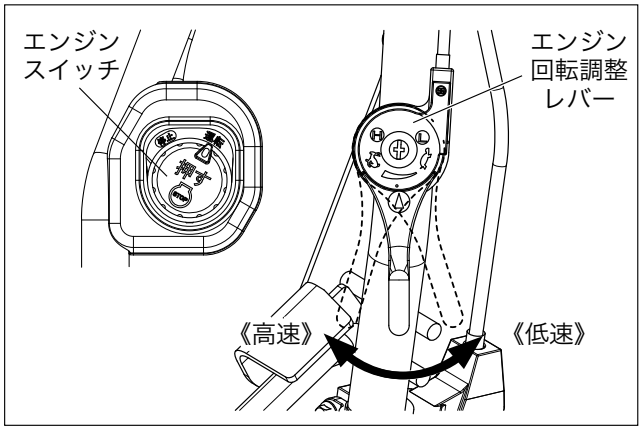
❷ 変速レバーを《**中立**》にします。



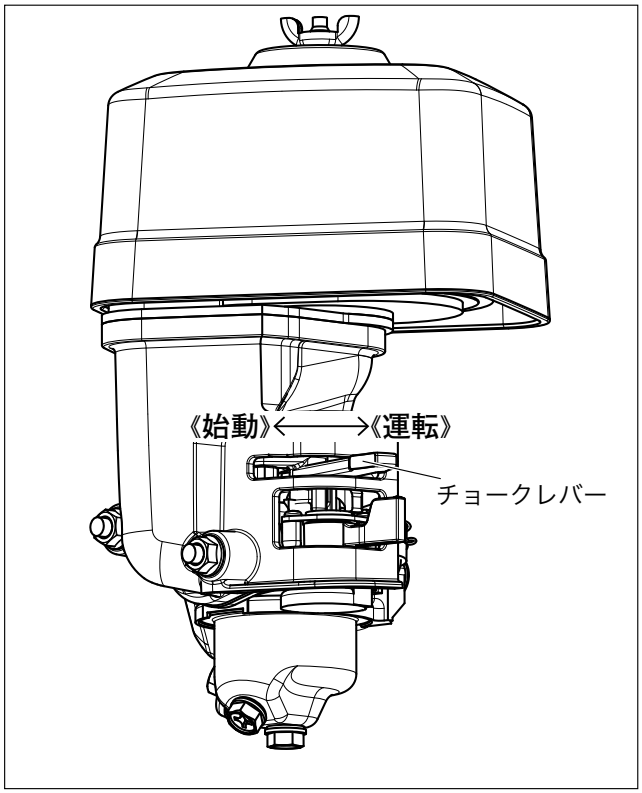
❸ 主クラッチレバーが《**切**》の状態にあることを確認します。

※主クラッチレバーから手を放せば自動的に《切》となります。

❹ エンジンスイッチを《**運転**》にし、エンジン回転調整レバーを《**低速**》と《**高速**》の中間にします。



❺ チョークレバーを《**始動**》にします。



エンジンが暖まっているとき（運転停止直後の再始動時）はチョークレバーを《**運転**》にします。（エンジンが暖まっているときでもエンジンが始動しない場合はチョークレバーを《**始動**》にしてください。）

❻ 始動グリップを引きます。

エンジンが始動したら調子をみながらチョークレバーを徐々に《**運転**》に戻します。

・チョークレバーを《**始動**》にセットして２～３回で始動しないときは、チョークレバーを《**運転**》にセットして始動グリップを２～３回ゆっくりと引きます。

取扱いのポイント

- **エンジン始動後はエンジン回転調整レバーを《低速》と《高速》の中間にし、エンジン回転が安定するまで暖機運転を行ってから作業をしてください。**
- **プラグキャップを外した状態で始動グリップを引かないでください。**
- **始動グリップを引くときは主クラッチレバーを握らないでください。**

2. エンジン停止のしかた

❶ 主クラッチレバーを《**切**》にします。
（手を放せば《**切**》になります。）

❷ エンジン回転調整レバーを《**低速**》にします。

❸ 変速レバーを《**中立**》にします。

❹ エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。

❺ 燃料コックレバーを《**止**》にします。

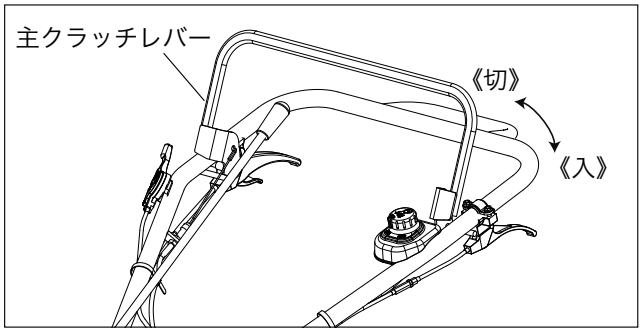
3．発進・旋回・停車のしかた

1．発進のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆本機は小型特殊車両ではありませんのでトレーラーでの路上走行はできません。
◆エンジンを始動するとき、または変速レバーを操作するときは主クラッチレバーを《切》にしてください。
（主クラッチレバーから手を放すと自動的に《切》になります。）
◆主クラッチレバーを急激に操作すると急発進したり、エンジンが停止したりしますので徐々に《入》にしてください。
◆移動の場合、尾輪を移動状態の位置にしてください。
◆傾斜面を降ろすときは、「後進」で降ろしてください。
◆緊急時には、主クラッチレバーから手を放してください。
◆耕うんしない場合は、変速レバーを《作業》に入れないでください。停止時は変速レバーを《中立》にします。

❶ エンジン回転調整レバーを《**低速**》にします。
❷ 主クラッチレバーを《**切**》にします。
❸ 変速レバーを作業に応じた変速位置に入れます。
❹ 主クラッチレバーを徐々に《**入**》にすると発進します。



❺ エンジン回転調整レバーを操作し、エンジン回転を上げます。

取扱いのポイント

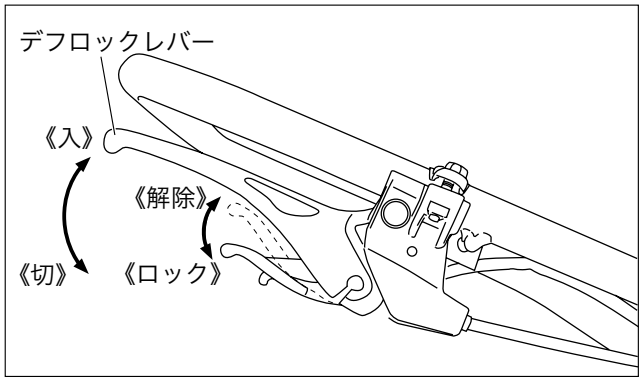
- **変速レバーは主クラッチレバーを《切》にして操作してください。**
- **変速レバーが入り難い場合は無理な操作をせず主クラッチレバーを入れ、もう一度切ってから変速してください。**

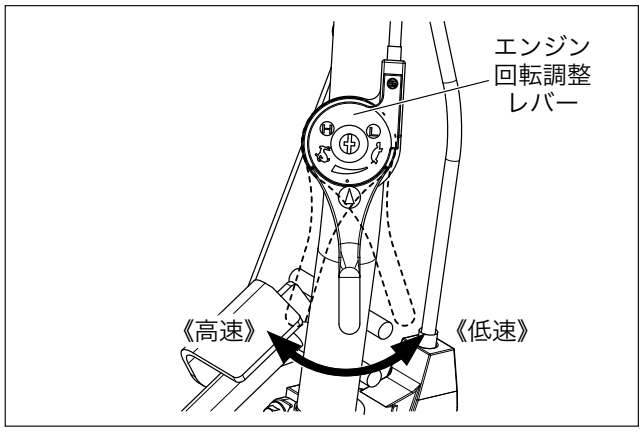
2．旋回のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときはロータリーを止めてください。

❶ 主クラッチレバーを《**切**》にします。
❷ エンジン回転調整レバーを《**低速**》にします。
❸ デフロックレバーを《**切**》にします。
❹ ハンドルを持ち上げ、ロータリーを地面から離して旋回します。



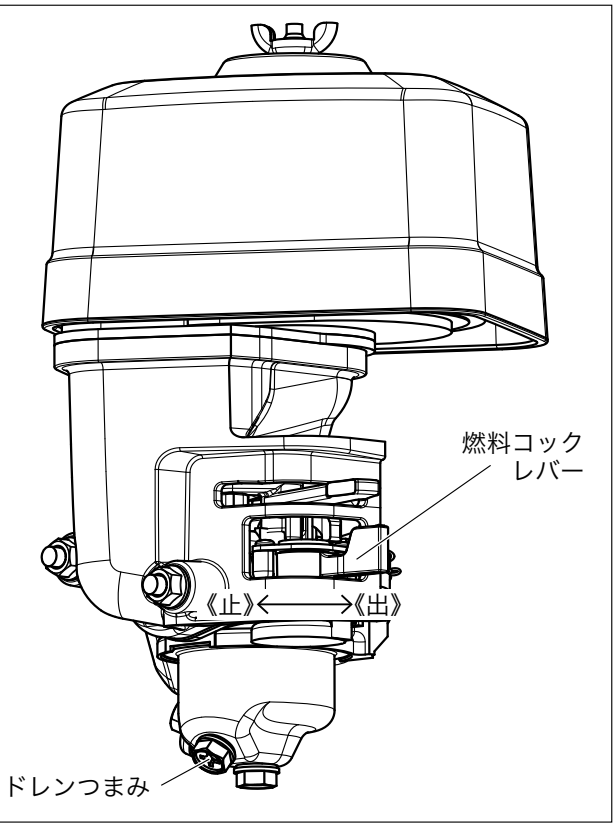


3．停車のしかた

⚠危険 傷害事故防止のために

◆本機を止めるときは平坦な場所を選んでください。
◆燃えやすいものの近くには停車しないでください。
◆エンジンが熱いときはカバーをかけないでください。「火災」の原因になります。

❶ 主クラッチレバーを《**切**》にします。
❷ エンジン回転調整レバーを《**低速**》にします。
❸ 変速レバーを《**中立**》にします。
❹ エンジンスイッチを押してエンジンを停止します。
❺ 燃料コックレバーを《**止**》にします。



取扱いのポイント

●エンジンを停止するときは２～３分間低回転で運転してから停止してください。

4．自動車への積み降ろし

・まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守って、慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車は荷台に天井のない車を使用してください。
◆アユミ板が傾いたりしない平坦な場所を選んでください。
◆自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車）に入れタイヤに輪止めをしてください。
◆アユミ板は本機の質量に耐える強度､幅(車輪が外れない幅)、長さ（荷台高さの４倍以上）のある、すべり止め、フック付き、ロータリー爪が引掛からないものを使用してください。
◆アユミ板のフックは段差のないように、またずれないように荷台に確実にかけてください。
◆アユミ板は隙間のないものを使用してください。
◆積み降ろしは補助者立会い誘導のもとに行なってください。また本機の周囲に人を近づけないでください。
◆積込みは前進、降ろすときは後進で低速で行なってください。
◆アタッチメント（作業機）は取外して積み降ろしを行ってください。
◆積み降ろし中はアユミ板の上で主クラッチレバーやデフロックレバーの操作はしないでください。急に方向転換したりして転落する恐れがあります。
◆自動車で本機を輸送中は急発進・急停止をやめ、カーブでは減速してください。本機の落下などの事故を起こすことがあります。

1．自動車・アユミ板について

❶　本機質量の積載を満たす自動車で荷台からはみ出さない車を使用します。

❷　自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車）に入れタイヤに輪止めをします。

❸　アユミ板は本機の質量に耐える強度、幅（車輪が外れない幅)、長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き、フック付きのものを使用します。

❹　アユミ板は自動車の荷台に本機の車輪幅に合わせて平行に段差のないようにかけ、横ずれしたり、はずれたりしないか確認します。

アユミ板の基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	30cm以上
数量	２枚
強度	１枚が200kg以上の質量にたえるもの
隙間が無くすべらない処理がしてあるもの	

2．本機の取扱い

❶　エンジン回転を低速にします。

❷　デフロックレバーを《**入**》にします。

❸　積込みは前進で行い、変速レバーは**移動**《**1**》にします。

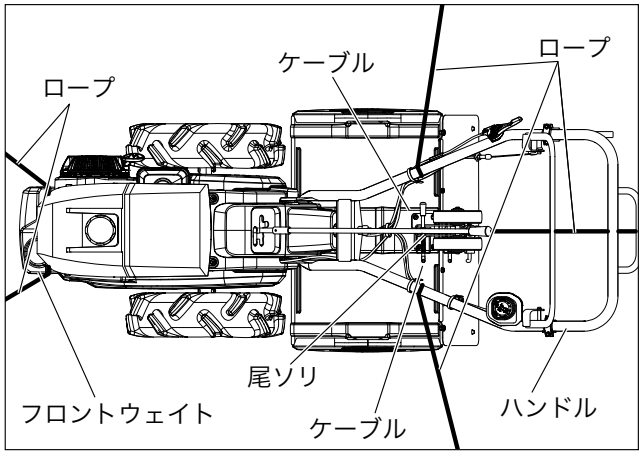
❹　降ろすときは後進で行い、変速レバーは《**後進**》にします。

❺　積込み後はエンジンを停止し、車輪に輪止めをして変速レバーを**移動**《**1**》にしておきます。

❻　燃料コックレバーを《**止**》にします。

❼　本機は自動車の荷台の床に安定した状態にしロープで固定します。本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。

❽　本機にロープを掛けるときは、フロントウェイト、尾ソリ、ハンドルを固定してください。



取扱いのポイント

- **ハンドルにロープをかけるときはケーブルを締めないでください。**
- **ハンドルが変形するほどロープを強く引かないでください。**

作業のしかた

1．作業前の準備

⚠警告 傷害事故防止のために

◆正転耕うん時には、ほ場のかたさにより本機が飛出すことがあるので注意してください。

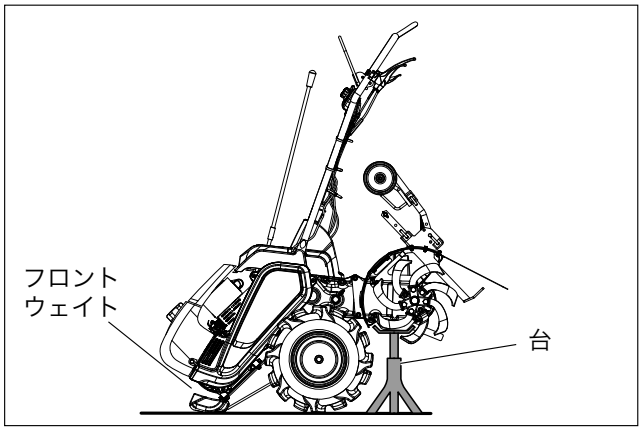
1．ロータリー爪の点検

⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検、交換は平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行なってください。

◆手にケガをしないよう厚手の手袋を着用してください。

点検、交換の前にフロントウェイトが地面に接するまで本機を前傾させ変速機ケースの下に台を置くなどして本機を固定してください。

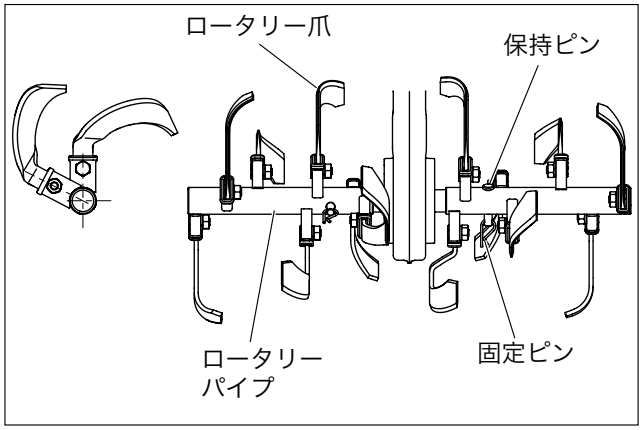


・ロータリー爪および、ロータリーパイプの損傷、曲がりがないか点検してください。
もし異常があったときは交換してください。

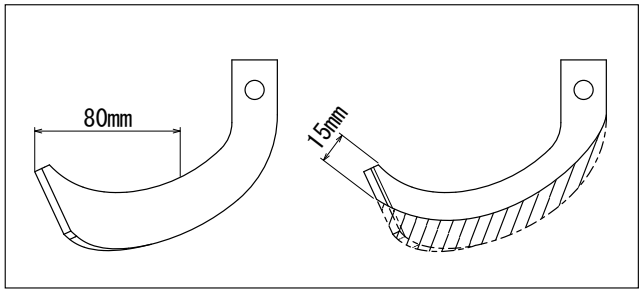
・ロータリー爪を取付けているボルトがゆるんでいないか点検してください。
もしゆるんでいたときはボルトを締め付けてください。

・保持ピン、固定ピンの脱落、変形がないか点検してください。

・必要であれば新しい部品と交換してください。



・ロータリー爪先端から８０mmの範囲内で、ロータリー爪幅が磨耗により１５mm以下になったら、ロータリー爪を交換してください。



2．ロータリー爪の取付けと作業状態

［JR型］

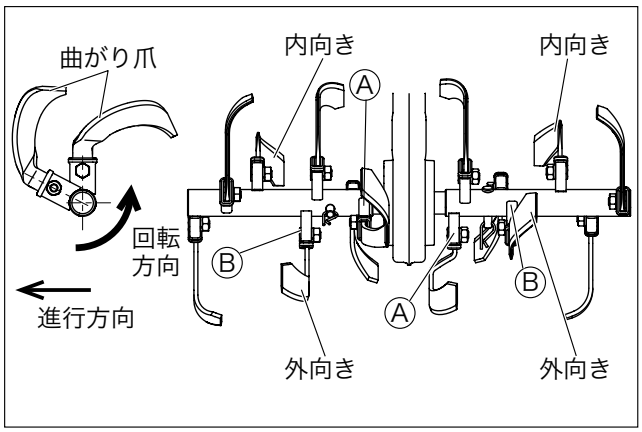
❶ 正転耕うん時のナタ爪の取付け

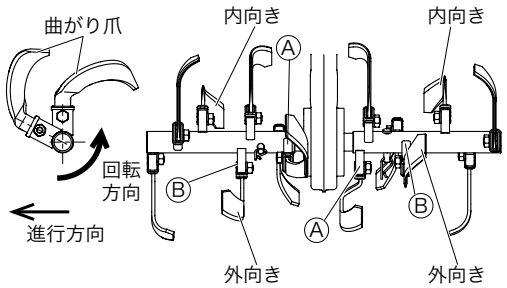
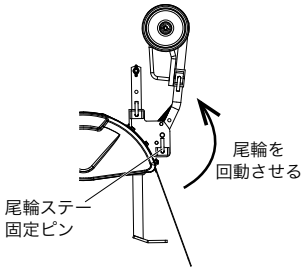
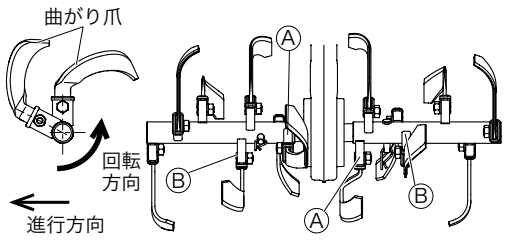
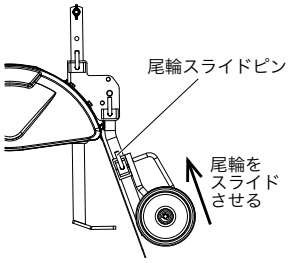
⑴ 最内側の爪取付金Ⓐに曲がり爪を外向きに取付けます。
（左、右各１本。図参照）

⑵ 内側から４番目の爪取付金Ⓑに外向きにナタ爪を取付けます。
（左、右各１本。図参照）

⑶ 残りの爪はすべて内向きに爪取付金に取付けます。（左、右各５本。図参照）

⑷ 左、右の曲がり爪の角度が図示通り（約63°）になるように保持ピンを差込み固定ピンで止めます。

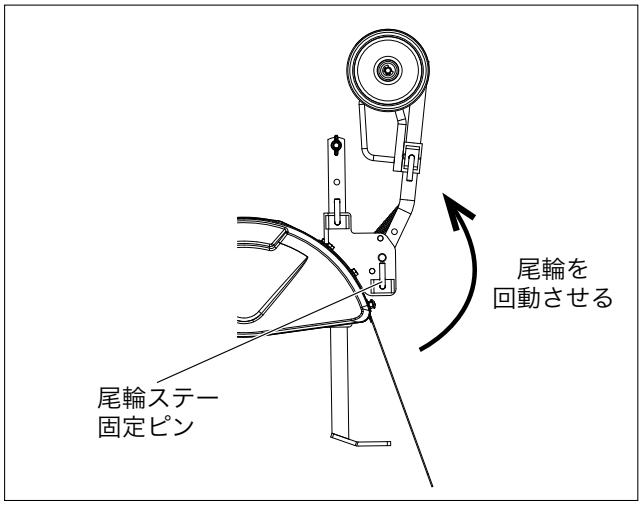


作業内容	ロータリーパイプの装着状態	尾輪	サイドカバー
平面耕うん （内盛り） 出荷状態 **[正転作業]**			閉
簡易うね立て作業 (内盛り) 出荷状態 **[正転作業]**			閉

❷ 尾輪の切替

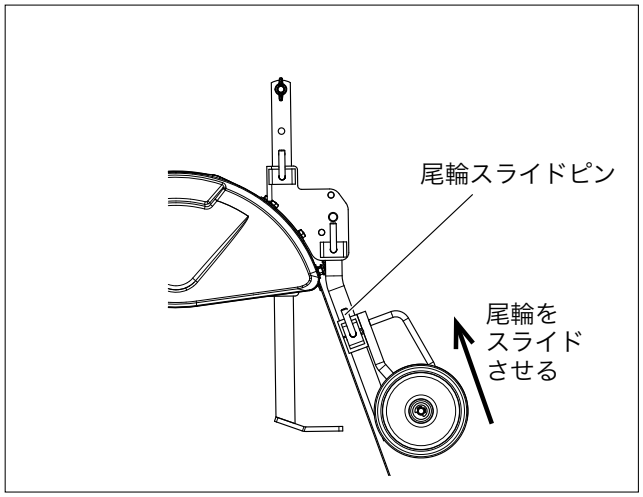
●平面耕うん作業の場合

・尾輪ステーを上方に回転して固定します。



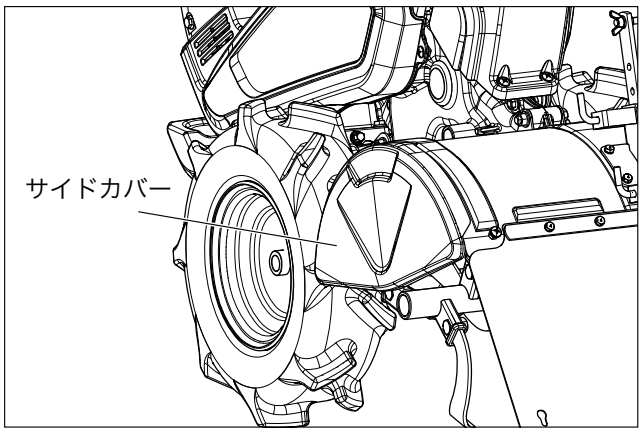
●簡易うね立て作業の場合

・尾輪ステーの中間の穴にスライドピンを固定します。



❸ サイドカバーの調整

サイドカバーは閉じた状態で耕うん作業をしてください。



［JRM型］

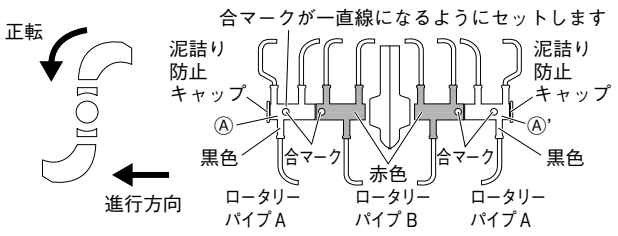
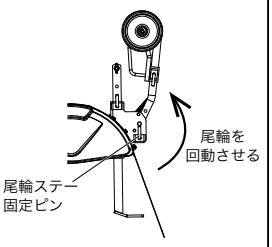
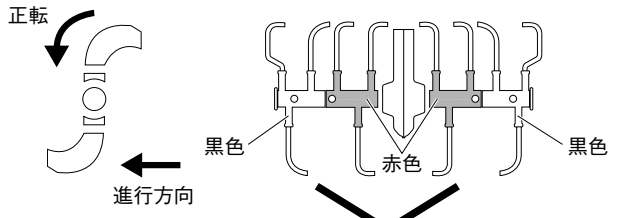
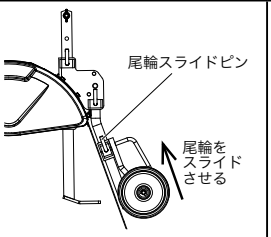
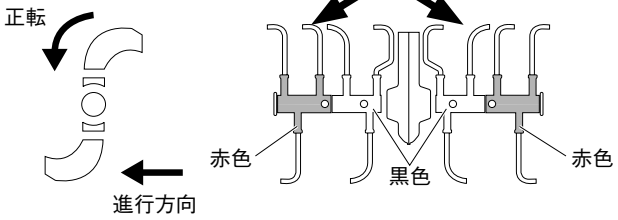
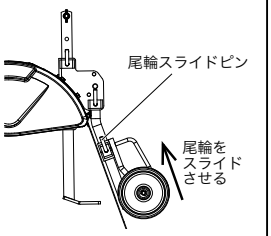
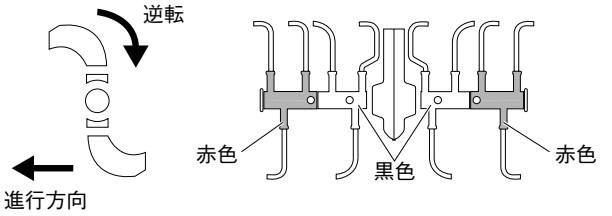
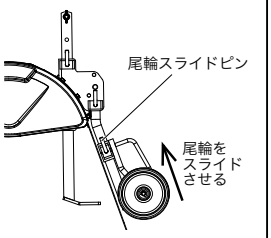
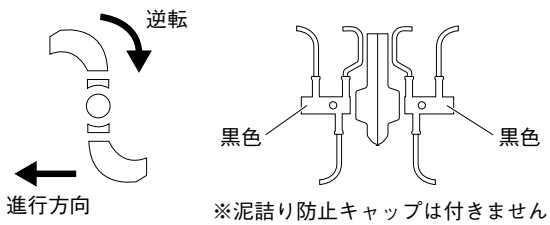
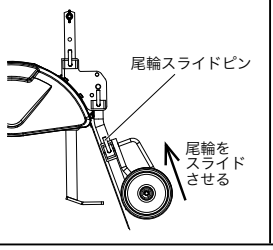
❶ ナタ爪の取付け

⑴ 最外側の爪取付金Ⓐ、Ⓐ′ に偏心土揚爪を内向きに取付けます。（左右各１本）

⑵ 残りの爪はすべて内向きに取付けます。
ロータリーパイプＡ：土揚爪（左右各２本）
ロータリーパイプＢ：ナタ爪（左右各３本）

❷ ロータリーパイプの付け替え

・ロータリーパイプは作業内容により下図の通り付け替えてください。
・ロータリーパイプの合マークは、合マークが一直線になる様に取付けてください。
・ロータリーパイプを付け替えるときは、泥詰り防止キャップを最外端にしてください。

作業内容	ロータリーパイプの装着状態	ロータリーカバー	尾輪	サイドカバー
平面耕うん（内盛り）出荷状態 **[正転作業]**		閉		閉
簡易うね立て作業(内盛り)出荷状態 **[正転作業]**		閉		閉
外盛り(うね盛り)耕うんロータリーパイプの左右（全体）を入れ替えます。（爪を外向きにします） **[正転作業]**		開		調整
うね立て耕うん（溝幅広）ロータリーパイプを出荷状態から左右それぞれ反転して取り付けます。 **[逆転作業]**		開		調整
うね立て耕うん（溝幅狭）上記状態から外側のロータリーパイプを外します。 **[逆転作業]**		開		調整

取扱いのポイント

●うね立て耕うん等で爪を逆転で使用した際には、作業後必ずベルトカバーを外し、カバー内に小石等の堆積がないことを確認してください。

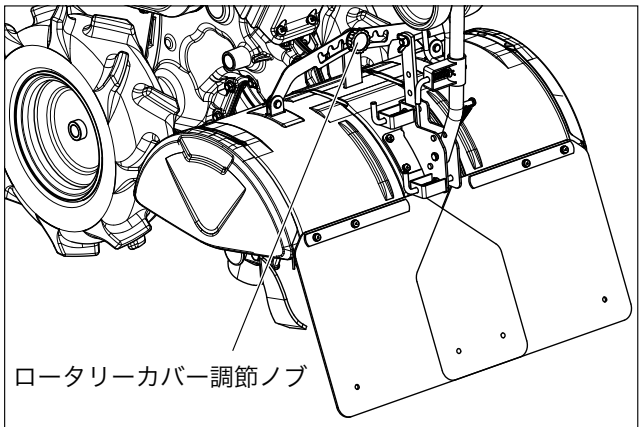
❸ ロータリーカバーの調節

・中耕除草、土寄せ、うね立てなど作業に合わせてロータリーカバーの開閉を調節します。

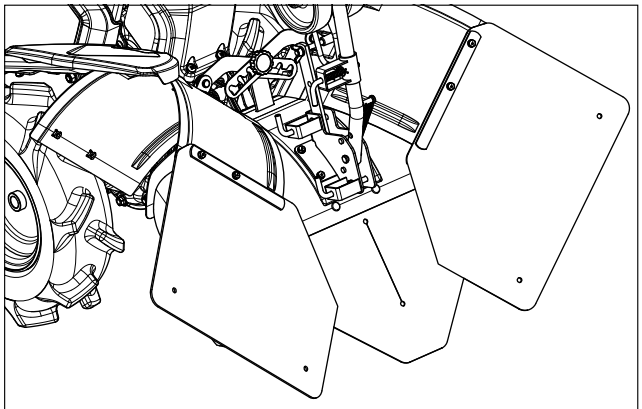
・平面耕うん（内盛り）
……カバーの水平状態(閉)

・外盛り耕うん・うね立て耕うん
……作業状態により傾斜状態(開)に調節します。

・調節後は調節ノブを確実に締付けます。



[ロータリーカバー閉状態]

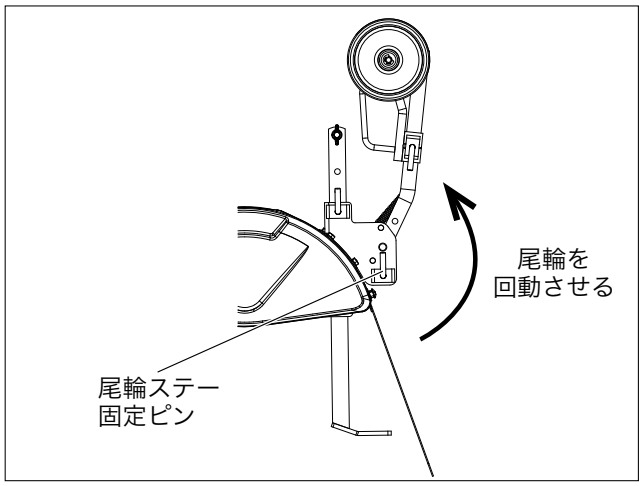


[ロータリーカバー開状態]

❹ 尾輪の切替

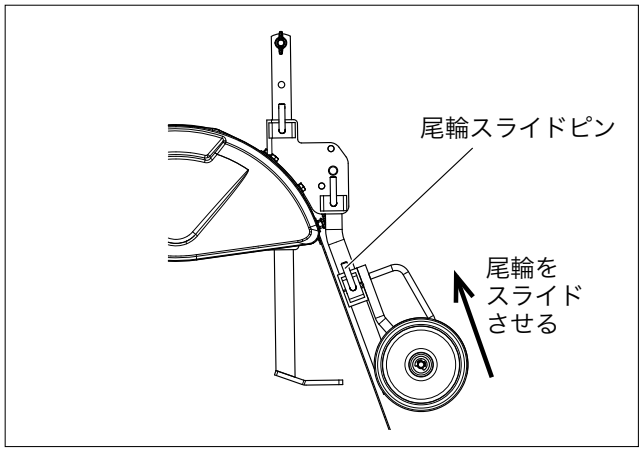
●平面耕うん作業の場合

・尾輪ステーを上方に回転して固定します。



●簡易うね立て作業の場合

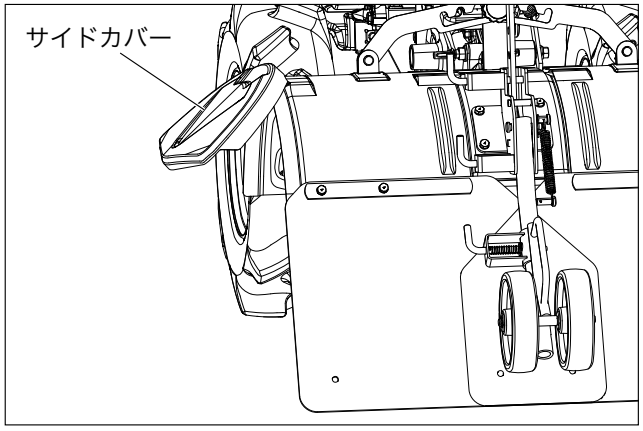
・尾輪ステーの中間の穴にスライドピンを固定します。



❺ サイドカバーの調節

・うね立てをする場合にサイドカバーの角度を調節します。

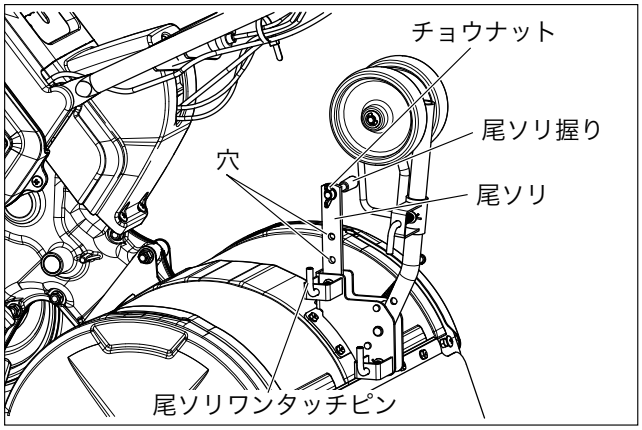
サイドカバー角度を作業に合わせ調節します。



3. 尾ソリの調節

耕うん深さの調節は尾ソリの上下で行います。

・尾ソリワンタッチピンを引っ張る
　尾ソリを引上げる……深くなる
　尾ソリを押下げる……浅くなる
・深さが決まれば尾ソリワンタッチピンを元の位置に戻し、尾ソリの穴部にピンをかみ合わせて固定します。



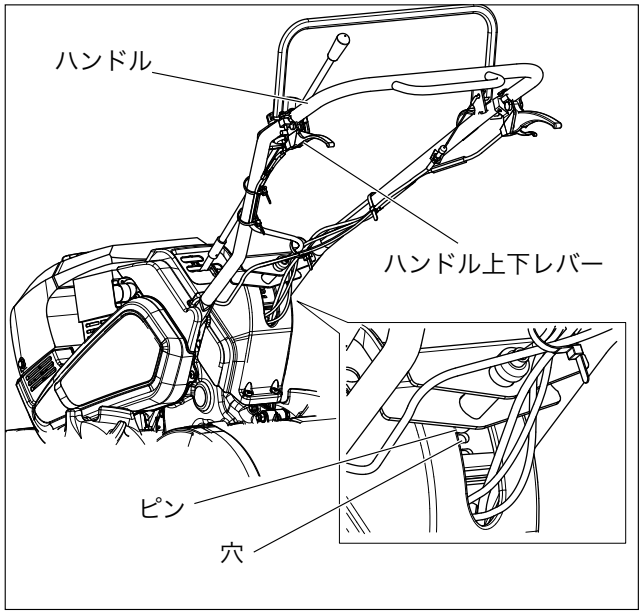
4. ハンドル上下レバーの調節

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドル上下高さの調節はエンジンを停止し、ハンドルから手を離しても本機が安定している状態（ロータリーが回転しない状態）にして行ってください。

ハンドルの高さを使用する人の体格や作業の種類にあわせて調節するときに使用します。

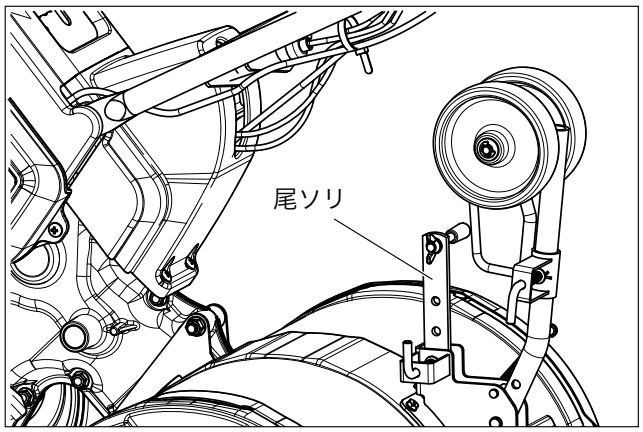
・ハンドルの高さを調節するときはハンドル上下レバーを握ってハンドルを上下へ動かします。
・セットしたい高さでレバーを離し、ピンと穴が合えばセット完了です。4段階の高さ調節ができます。



5. 作業機の取付け

作業機は尾ソリを取外し、尾ソリが固定していた位置にセットしてください。(23ページ参照)

❶ 尾輪を耕うん作業にします。(24ページ参照)
❷ 尾ソリを取り外します。
❸ 尾ソリの付いていた部分に作業機を取り付けます。



2．ほ場作業のしかた

1．ほ場への出入りのしかた

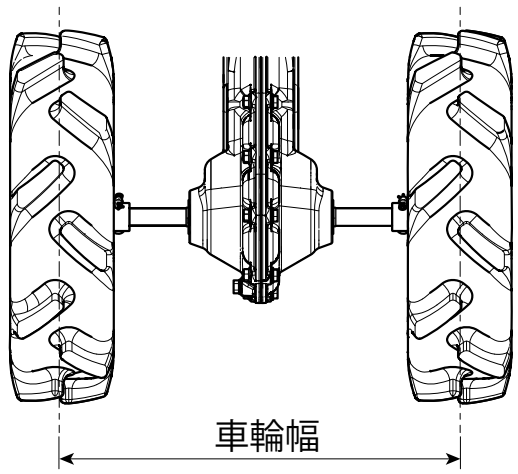
⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは作業機の回転を止めて行なってください。
◆ほ場への出入りやあぜ越えは低速であぜと直角に、上りは前進、下りは後進で行なってください。
◆ほ場への出入り・あぜ越え・アユミ板の上ではデフロック操作や主クラッチ操作、変速操作をしないでください。
◆高あぜ・ 急傾斜・ 溝越えはロータリー爪のひっかからない、 隙間がなくすべらない処理のしてあるアユミ板を使用してください。
◆あぜがくずれないことを確認してからゆっくり行なってください。
◆後進するときは後方に溝や障害物がないことを確認してから後進してください。
◆夜間作業はしないでください。

❶ エンジン回転を低速にします。
❷ 変速レバーは移動《1》にします。
❸ あぜに直角に走行します。
❹ アユミ板を使用するときは、**「自動車への積み降ろし」**(29ページ参照) の内容を参考に行います。

2．車輪幅について

・タイヤサイズ4.00−7装着時の車輪幅は426mmです。(ホイルパイプや車軸にピン穴がありますが変更できません。)
・[JRM型] においては、タイヤサイズ3.50－7 (オプション) 装着時はピン穴組み合わせで車輪幅を変更することができます。(426mm、374mm、265mm、213mm)



[後方視]

3. 作業に適した速度の選びかた

車速

変速	変速レバー	車速（km/h）		適　応　作　業
		[JR型]	[JRM型]	
前進	移動《1》	0.90	1.14	・移動 ・自動車への積込み ・ほ場への出入り
	移動《2》	1.44	4.10	・移動 ・JR型は《２速》作業可 ・ほ場への出入り
	移動《3》	3.65	－	・移動
後進	後進	1.07	1.37	・移動 ・自動車から降ろすとき ・ほ場への出入り

ロータリー回転速度

変速レバー位置	ロータリー回転速度(rpm)		適　応　条　件
	[JR型]	[JRM型]	
《正　転》	225	250	・やわらかい場所の耕うん ・２回掛けの耕うん ・平面耕うん
《逆　転》	－	352	・中耕、除草 ・うね立て耕うん

(注) 車速、ロータリー回転速度は、エンジンプーリー回転速度1600rpm時の数値です。

4. 上手なほ場作業のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆後進するときは、後方に溝や障害物がないことを確認してから後進してください。
◆ロータリー爪の交換や、耕うん部の草の巻付きを取除くときは、エンジンを停止してから行なってください。
◆作業中はハンドルを支えるだけとし、無理に押付けないでください。(押付けた場合状況により本機が前方へ飛出すことがありますので、ハンドルは無理な力を加えないでください。)
◆本機を離れるときは「平坦な場所」を選びエンジンを止め、変速レバーを移動《1》または移動《2》に入れておきます。
◆後進するときは、ハンドルを持ち上げてロータリー爪を地面から浮かせてください。リアシールドがロータリー爪に触れた状態だと、ロータリー爪を回転させた時にリアシールドが破損する恐れがあります。

❶ 耕うん作業中の移動・後進はロータリー爪の回転を止め、足元に気をつけて行います。

❷ 後進するときは、後方に障害物がないことを確かめます。障害物やハウスの壁と本機の間にはさまれないよう後方を確認して行います。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平たんな場所に本機を置いて、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮しいつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し、必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検間隔 (1)					参照ページ 備考
			シーズン前	作業前	1年目 もしくは 初回20時間毎	2年毎 もしくは 50時間毎	格納時	
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	●(3)	○	●(3)	●(3)	○	42
	エアクリーナー	点検・掃除・交換		○(2)		●(2)	○(2)	44
	燃料タンク/燃料ろ過キャップ	点検・掃除	○(3)			○(3)	○(3)	−
	燃料チューブ	点検・交換	○			●(3)	○	46 (2年毎に交換)
	燃料タンクの燃料	給油・抜取り		○			抜取り	42、51
	気化器の燃料	抜取り					抜取り	51
	点火プラグ	点検・掃除・交換				○	○	46
	電気配線	点検		○			○	−
	エンジンの始動、停止	点検		○			○	−
	エンジン取付ボルト	点検・増締め		○			○	−
本機関係	変速機オイル	点検・補給・交換	○		●(3)	●(3)	○	43
	給脂箇所	給脂	○				給脂	43
	各操作レバーの作動	点検		○			○	−
	エンジン回転調整ケーブル	点検・調整				○	○	48
	主クラッチケーブル	点検・調整			○	○	○	47
	デフロックケーブル	点検・調整				○	○	49
	ハンドル上下ケーブル	点検・調整				○	○	49
	ボルト・ナットのゆるみ	点検・増締め		○			○	49
	タイヤ	点検		○			○	46
	ベルトカバー内の状態	点検・掃除		○(6)			○(6)	47
	駆動ベルト	点検・調整			○(3)(5)	○(3)(5)	○(3)(5)	47

取扱いのポイント

●本機または､部品などを廃棄するときは｢お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店｣にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処理について
■廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり法令により処罰されます。
■廃棄物を処理するときは
○本機から廃液を抜く場合は容器に受けてください。
○地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
○廃油、燃料、フィルター、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または処分するときは「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」または産業廃棄物処理業者などに相談して所定の規則に従って処理してください。

⑴ 点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
⑵ ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は１０時間運転毎または１日１回行ってください。
⑶ 適切な工具と整備技術を必要としますので、｢お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店｣で実施してください。
⑷ 表示時間を経過後、速やかに実施してください。
⑸ ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。
⑹ ベルトカバー内に泥・草・石などが溜まっていれば取り除きます。

2．給油・注油のしかた

・工場出荷時に変速機オイルは規定量入れてあります。
・オイルの点検・交換は**「運転前の点検表」**(25ページ参照）および**「定期点検整備表」**(38ページ参照）に従って行います。
・オイルの点検・交換は本機を平坦な場所に置いて行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **交換したオイルを廃却するときは「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」または、産業廃棄物処理業者などに相談して所定の規則に従って処理してください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときはエンジンを停止し、各部の動きが止まってから注油してください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料チューブは交換してください。燃料漏れがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

⚠注意 ヤケド防止のために

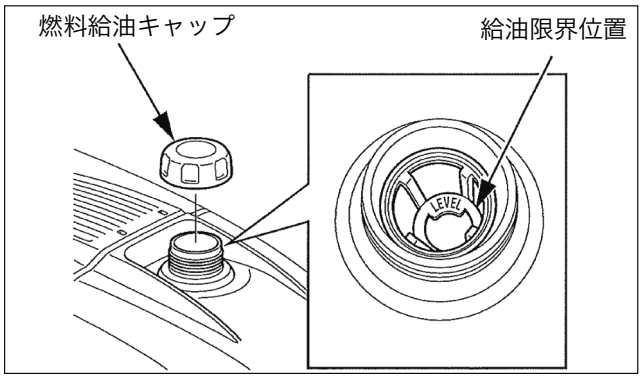
◆マフラー、マフラー排気口に触れないでください。

「給油・注油・給脂表」

	No.	給油・注油・給脂箇所	種　類	分　類		容　量（L）	備　考
				API サービス分類	SAE 粘度番号		
給油	①	燃料タンク	無鉛ガソリン	−	−	1.6	・始業時点検（必要量補給）
	②	エンジン	エンジンオイル	SE級以上	10W－30	0.6	・初回20時間または１年後のどちらか早い方 ・以降50時間毎または２年毎のどちらか早い方
注油	③	各操作レバー軸､テンションプーリー回動支点、ケーブル、尾輪	エンジンオイル	SE級以上	10W－30	適　量	
給脂	④	変速カム部	リチウムグリス	−	−	適　量	

・リチウムグリスはJIS１種０号を使用する。

1．燃料の補給



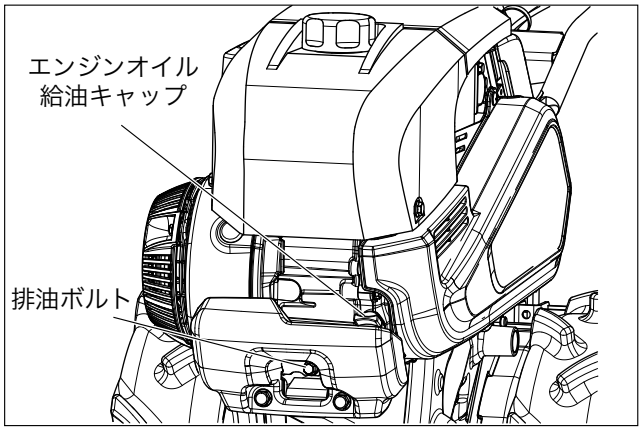
ロータリー爪が接地した状態で平坦な場所に停車し、燃料給油キャップを外して注入口より補給します。　・燃料……無鉛ガソリン

・タンク容量……1.6 L

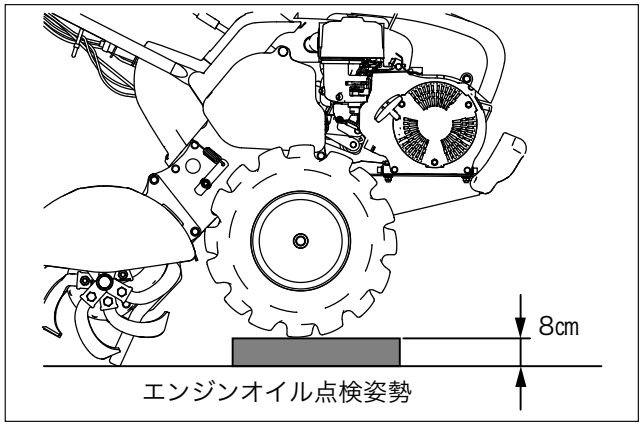
取扱いのポイント

- **ゴミや水が混入しないように給油します。**
- **燃料は給油限界位置を越えないように補給してください。**

2．エンジンオイルの点検・交換

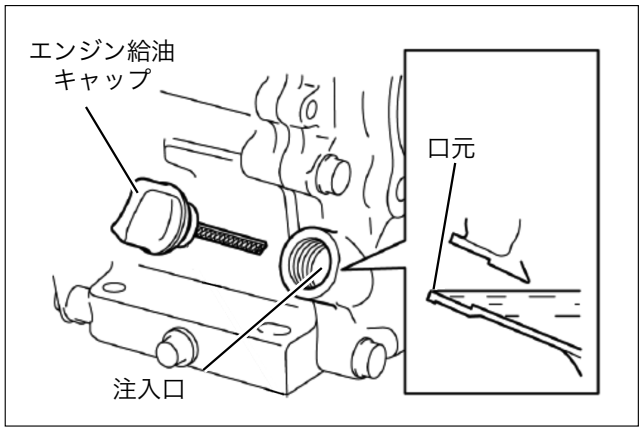


❶ **点検**……エンジンが水平になるようにタイヤを厚さ8㎝の木台などに乗せて抵抗板を接地した状態で、エンジンオイル給油キャップを外しオイル面が「口元」まであるか確認します。



取扱いのポイント

- **エンジンオイル給油キャップを外し注入口の「口元」までオイル面があるか確認し、不足している場合は補給します。**



❷ **交換**……抵抗板が接地した状態でエンジンを水平にして停車し、廃油ボルトを外しオイルを抜きます。その際、オイルは適切な容器で受けてください。オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締め、新しいオイルを注入口の**「口元」**まで給油します。

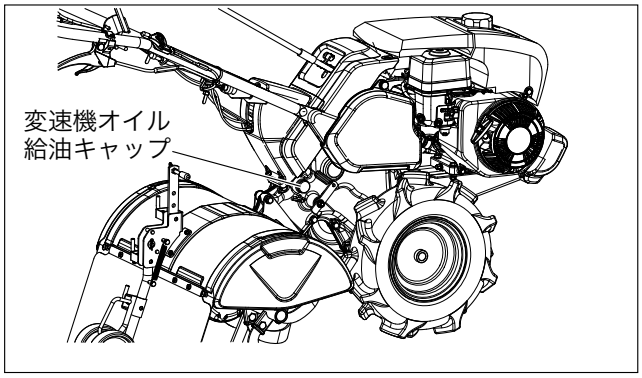
・オイル……Honda純正ウルトラU汎用(SAE・10W－30)
API・SE級以上、SAE・10W－30

・オイル量…0.6 L

取扱いのポイント

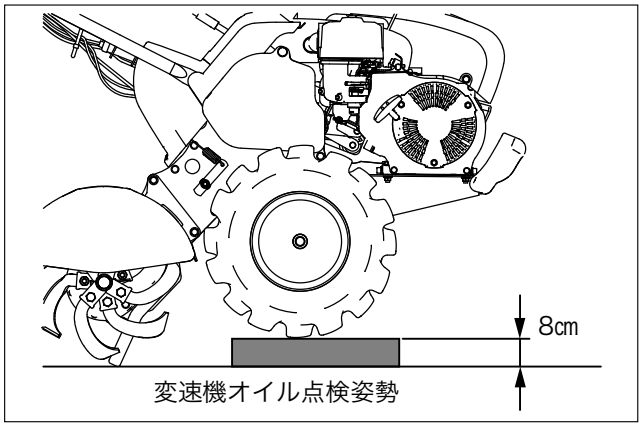
- **オイル交換後はアイドリング回転で５分間程度運転し、各部にオイルをゆきわたらせてください。**

3. 変速機ケースのオイル点検



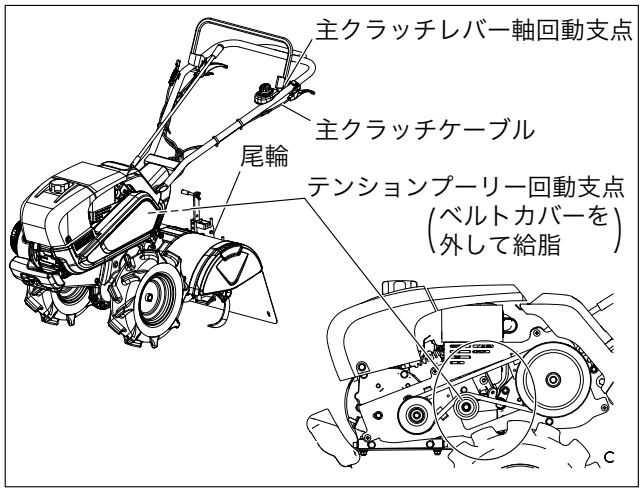
点検……変速機オイル給油キャップを外しエンジンオイル点検姿勢で油面が口元から15～25mm下にあるか調べます。

・不足しているときは**「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」**に相談してください。



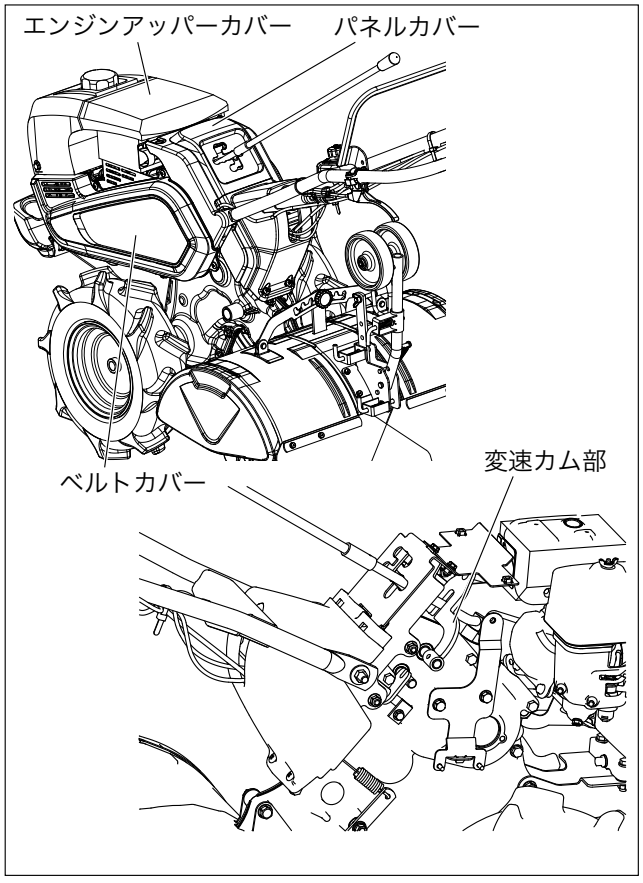
4. 給脂箇所

給脂箇所…ケーブル類・主クラッチレバー軸回動支点･変速レバー軸回動支点・テンションプーリー回動支点･尾輪



サビやすい箇所（ロータリー回転軸・車軸など）にも給脂すると本機をきれいな状態で維持できます。

(1) カバー類を取外します。



(2) 取外したカバー類を元の状態に戻してください。

3．各部の点検と掃除のしかた

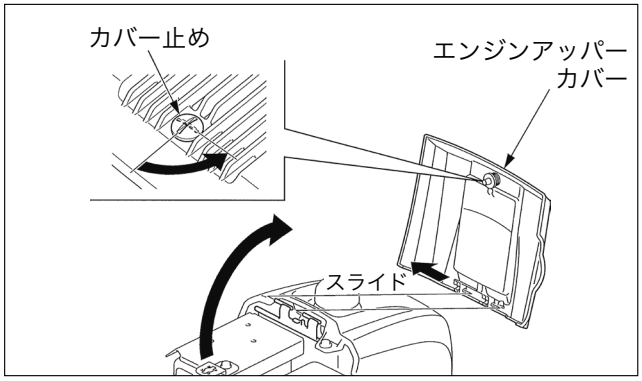
⚠危険 火災防止のために

◆ろ過部の洗浄にガソリンは使用しないでください。

1．エアクリーナーの掃除

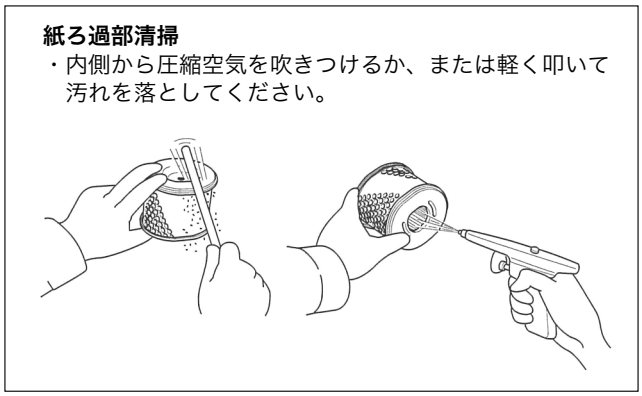
ろ過部を汚れたままで使用すると､エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ エンジンアッパーカバーのカバー止めを回しエンジンアッパーカバーを開けたあと横にスライドさせて取外します。

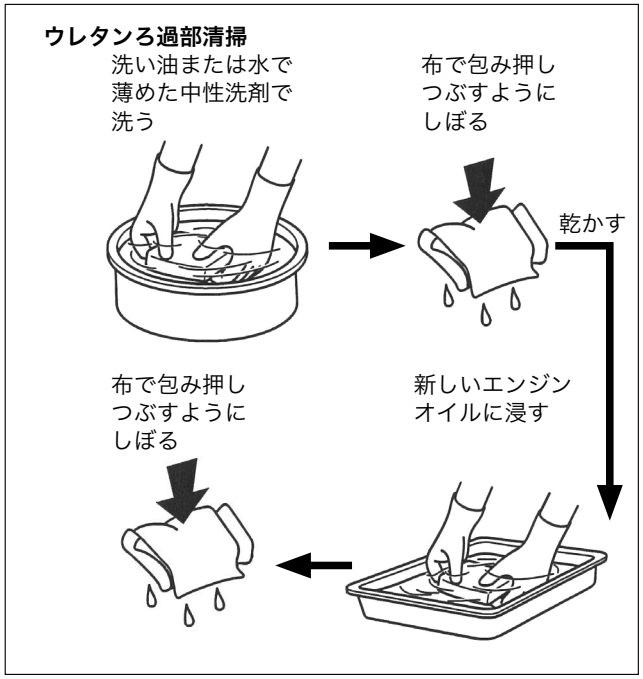


❷ エアクリーナーを外し、ろ過部（ウレタン・紙製）が汚れていないことを確認します。汚れている場合はろ過部を洗浄します。

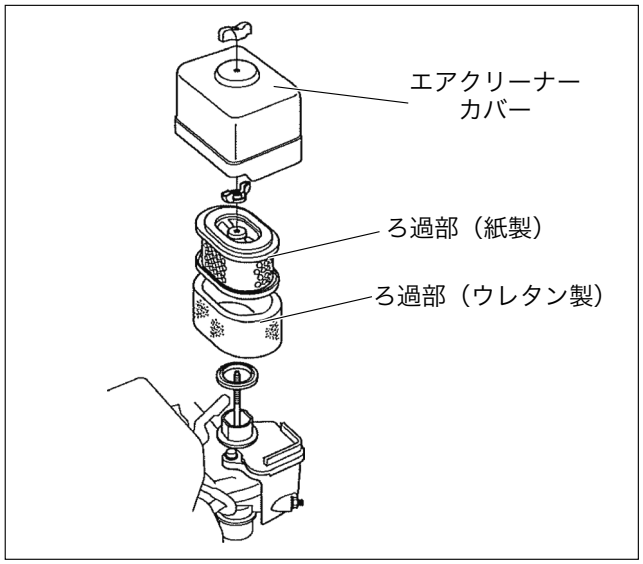
・紙ろ過部



・ウレタンろ過部



❸ エアクリーナーの点検後、エンジンアッパーカバーを取り外した逆の手順で取り付けます。



取扱いのポイント

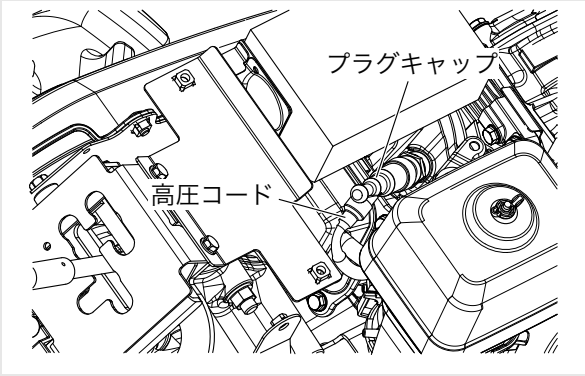
- **エアクリーナーカバーの取り付けは確実に行なってください。取り付け方が悪いと振動でカバーが外れる場合があります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（紙製）を装備しなかったり、取り付け方が悪いとエンジンに悪影響を与える原因になります。**

2. 点火プラグの点検と掃除

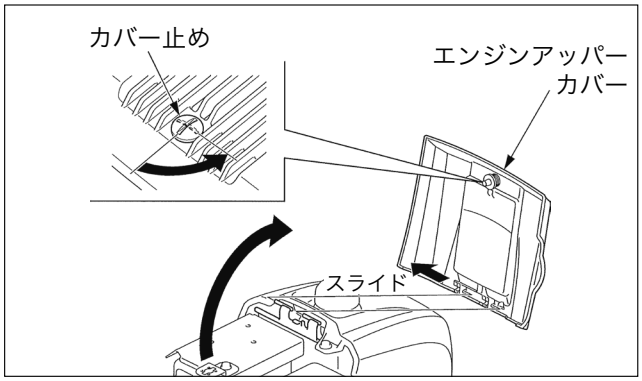
⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。

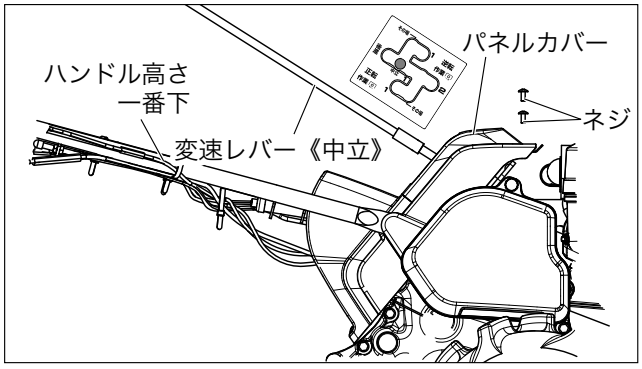
◆始動グリップを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。



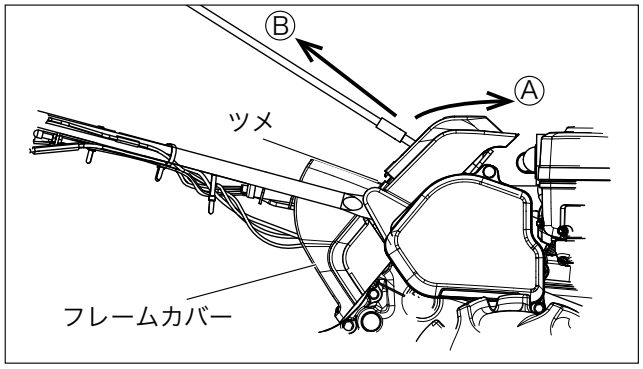
❶ エンジンアッパーカバーのカバー止めを回しエンジンアッパーカバーを開けたあと横にスライドさせて取外します。



❷ ハンドル上下レバーを操作し、ハンドル高さを一番下にして、変速レバーを《中立》にします。パネルカバーを固定しているネジ２本を外します。

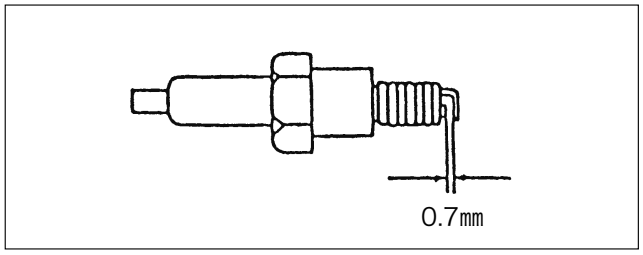


❸ パネルカバーをエンジン側に持ち上げ（Ⓐ方向）パネルカバーのツメをフレームカバーから外します。パネルカバーを変速レバー側（Ⓑ方向）にスライドし取り外します。



❹ プラッグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。

❺ 点火プラグについているカーボンを取り除き電極隙間が「0.7mm」になる様に点検調整します。



❻ 電極部が損耗または破損しているときは、新しい点火プラグと交換します。

❼ 点火プラグを取付け後，プラグキャップを確実に差込みます。

・使用点火プラグ……NGK　　BPR5ES
デンソー　W16EPR-U

❽ 作業が完了したらパネルカバーとエンジンアッパーカバーを元の状態に戻してください。

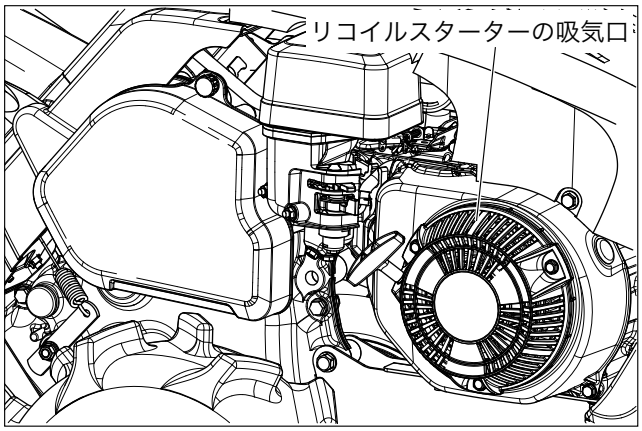
取扱いのポイント

- **プラグキャップを外したままで始動グリップを引かないでください。**
- **点火プラグをエンジン側にアースしないで始動グリップを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。**

●**点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しないときは新しい点火プラグと交換してください。**

3. リコイルスターターの掃除

リコイルスターターの吸気口はきれいに掃除しておきます。ワラクズ、ゴミなどの付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。(ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。)



4. 燃料チューブの点検

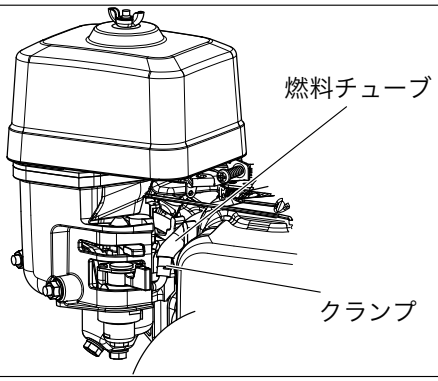
⚠危険 傷害事故防止のために

◆燃料チューブの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し、漏れている場合は火災の原因となりますので交換してください。

燃料チューブの劣化や傷による燃料漏れがないか、またクランプがゆるんでいないか点検します。

傷んでいなくても２年ごとに交換します。

交換は「**お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店**」に相談してください。



5. タイヤの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆タイヤの空気圧を守ってください。空気を入れすぎる(空気圧が高すぎる)と、タイヤが破損し、死傷事故につながることがあります。

◆タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合はタイヤが破損するおそれがありますので、使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」に相談してください。

・タイヤに亀裂など損傷がないか点検します。
　損傷のひどい場合はタイヤを交換します。
・タイヤの空気圧を調整します。

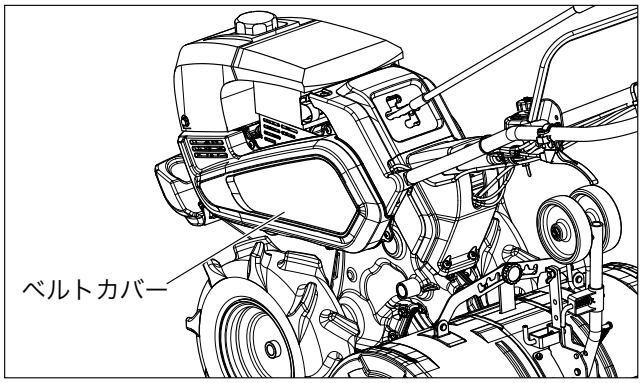
空気圧

タイヤサイズ	空気圧kPa（kgf/㎠）
※　3.50－7	140（1.4）
4.00－7	120（1.2）

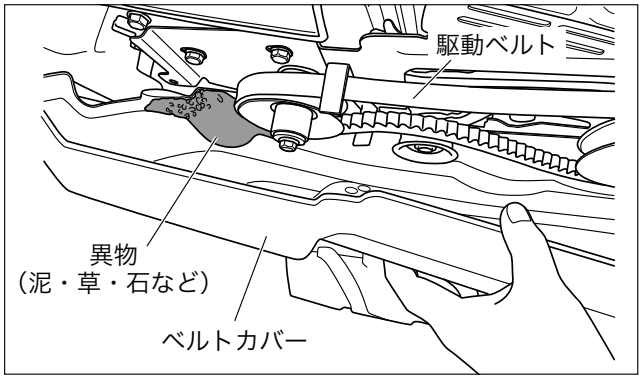
※ 3.50 － 7タイヤはオプションです。

6．ベルトカバー内の点検と掃除

❶　ベルトカバーを取り外します。



❷　ベルトカバー内に異物（泥・草・石など）が溜まっていれば取り除きます。異物が溜まっていると、主クラッチレバーが《切》の状態でも走行する恐れがあります。



❸　ベルトの亀裂・摩耗を点検してください。異常がある場合は**「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」**にご相談ください。

❹　作業が完了したらベルトカバーを取り付けます。

4．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し、正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は本機を平坦な場所に置きエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆調整後は異常なく作動することを試運転で確認してください。

1．主クラッチの調整

⚠警告　傷害事故防止のために

◆主クラッチの調整はエンジンを停止して行なってください。
◆エンジンを始動してベルトの作動、停止を確認するときは他の人や物を遠ざけ、エンジンプーリーやベルトに手や足を出さないでください。
◆ベルトを張りすぎないでください。ベルトを張りすぎると主クラッチが切れず、事故を起こす恐れがあります。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆調整後はベルトカバーを取付けてください。

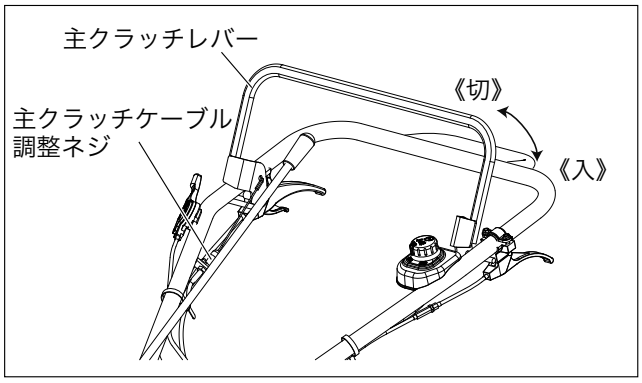
❶　主クラッチはベルトテンション式です。（放せば《**切**》になります。）

❷　主クラッチの調整が悪く、ゆるいと駆動ベルトのスリップにより作業能率および性能が低下し、駆動ベルトの損耗も早くなります。

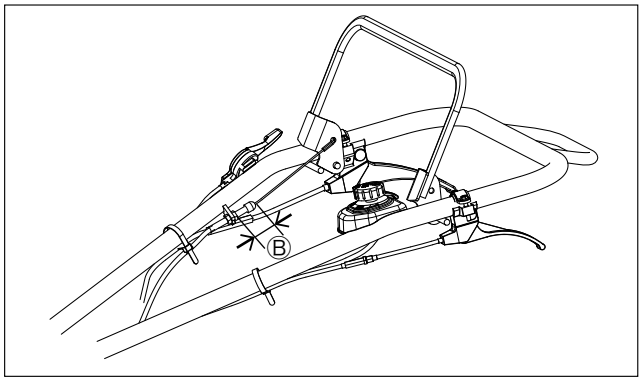
❸　また張りすぎると主クラッチが切れず、本機が停止できなくなることがあります。

「調整方法」

⑴ エンジンを停止しベルトカバーを外します。



⑵ レバー握り部での「**操作荷重**」が **29.4～34.3N（3.0～3.5kgf）** になるように、主クラッチケーブル調整ネジで調整します。



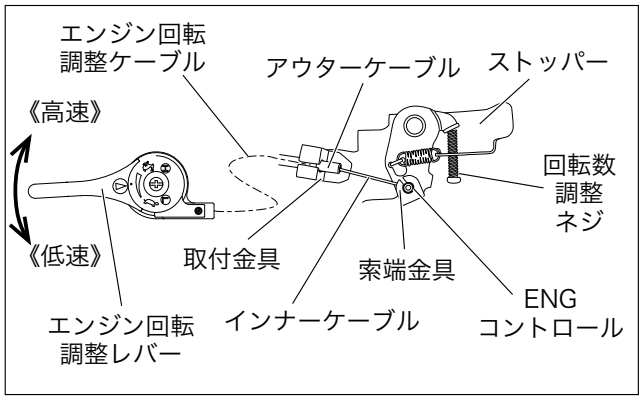
（Ⓑ寸法を長くすると操作荷重が小さくなり短くすると大きくなります。）

⑶ 主クラッチレバーを《**切**》にし、変速レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動します。
主クラッチレバーを《**入**》にした後《**切**》にし、《**切**》の位置で駆動ベルトが完全に静止すれば調整は完了です。
駆動ベルトが完全に静止しない場合は調整ネジを再調整します。

⑷ 調整が完了したら、エンジンを停止しカバーを取付け、主クラッチレバーを《**切**》にします。

2. エンジン回転調整ケーブルの調整

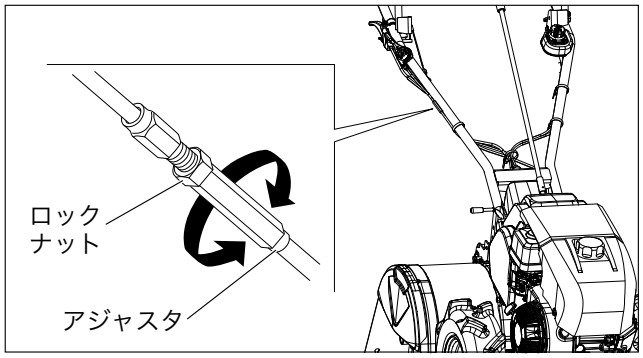
エンジン回転調整ケーブルの調整が悪いとエンジン不調の原因となります。



①点検 …⑴ エンジンを停止した状態でエンジン回転調整レバーを《**低速**》にします。

⑵ エンジンアッパーカバーを開き、（28ページ参照）エアクリーナーを外します。（44ページ参照）

⑶ エンジン回転調整レバーを《**高速**》にしたときにENGコントロールが連動し、回転数調整ネジにストッパーが当たっていますか？



②調整 …⑴ エンジン回転調整レバーを《**高速**》にしたとき回転数調整ネジの先端がストッパーに当たることを確認します。

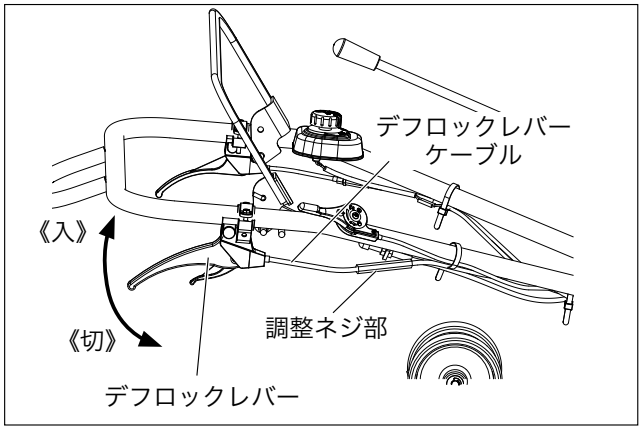
⑵ ストッパーに当たっていない場合は、ロックナットをゆるめ、アジャスタを回して調整します。

⑶ ストッパーが当たるよう調整して、ロックナットを締め付けます。

⑷ エアクリーナーを取付け、エンジンアッパーカバーを閉じます。

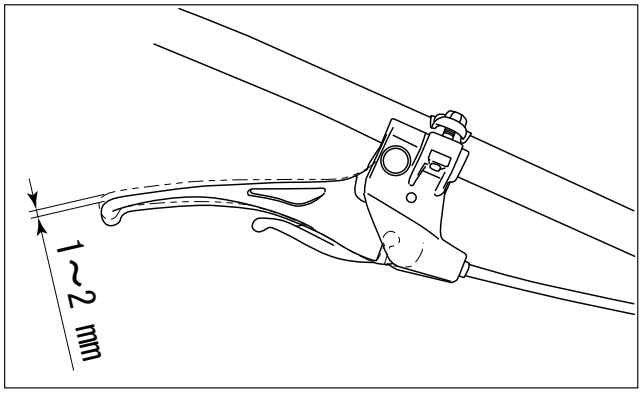
3. デフロックケーブルの調整

❶ デフロックレバーを《入》にするときの荷重が 29.4～58.8N（3.0～6.0kgf） になるよう、調整ネジ部で調整します。



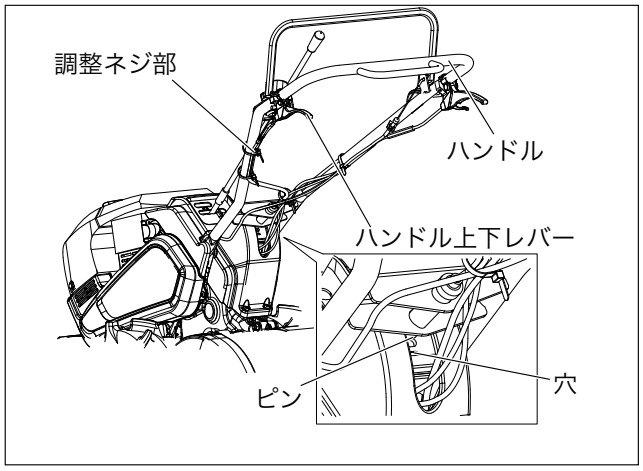
取扱いのポイント

- デフロックレバーを《入》にしたとき、デフが固定することをハンドルを左右に振り確認してください。
- デフロックレバーの遊びが1～2mmあることを確認してください。



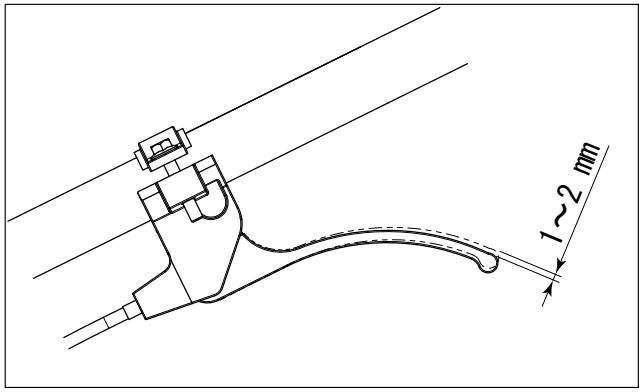
4. ハンドル上下ケーブルの調整

ハンドル上下レバーから手を放すと、ピンが穴に確実に入り、ハンドルが固定できるように、ケーブルの調整ネジ部で調整します。



取扱いのポイント

- ハンドル上下レバーは、穴とピンとのガタが出ないように、レバーの遊びが1～2mmあることを確認してください。



5. ボルト・ナットの点検

・エンジン・フレーム・ハンドル・ロータリー爪などの各部取付ボルト・ナットの締付けを点検します。

長期格納のしかた

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときはエンジンを停止し、各部の回転が停止してから行なってください。

◆高温部が冷えてからエンジン・マフラー・燃料タンク周囲のワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」(39ページ参照）の「**格納時**」の項目について点検・整備及び掃除を行い、更に次の処置をします。

1．本機の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・草などを取除き汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。

❷ 塗装がはげた箇所は補修塗料を塗り、本機のサビやすい箇所にはグリスを塗布します。

❸ 回転部・しゅう動部・ケーブル類には給脂し、サビないようにします。

❹ サビやすい箇所（ロータリー回転軸・車軸など）に給脂します。

取扱いのポイント

- **エンジンが熱いときは水をかけないでください。**
- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。**

- **洗浄時の注意**

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人にケガをさせたり、本機を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルに従って正しく使用してください。

⚠危険 ヤケド、火災、傷害事故防止のために

本機を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗浄してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗浄すると

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

2．本機の破損・損傷・故障の原因になります。

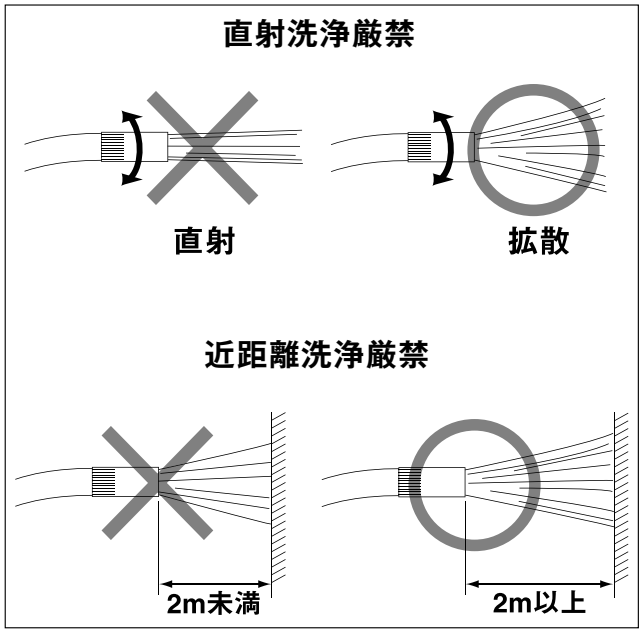
例）

（1）シール・ラベルの剥がれ

（2）電装部品、エンジン・ミッションケースなどへの水の侵入による故障

（3）タイヤ、オイルシールなどのゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなどの破損

（4）塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



2. エンジンの手入れ

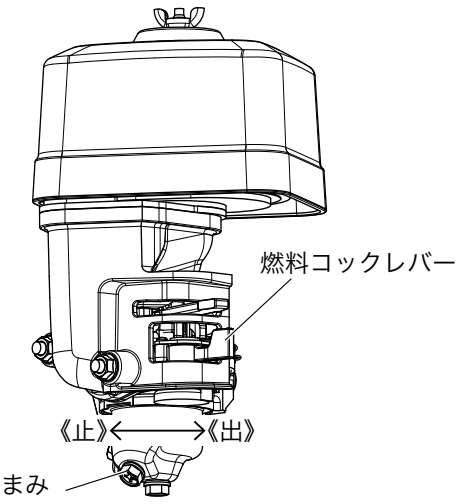
⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料取扱い時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料チューブは交換してください。燃料漏れがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

⚠注意 ヤケド防止のために

◆マフラー、マフラー排気口に触れないでください。

❶ 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
❷ 燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜きます。
❸ 燃料を受けるため、適切な容器をキャブレターの下方に配置してください。確実に燃料を受けるため必要に応じ、じょうごなどを使用してください。
⑴ 燃料コックレバーを《止》にします。
⑵ ドレンつまみを１～２回転ゆるめて燃料を抜きます。
⑶ 燃料コックレバーを《出》にします。
⑷ 燃料が出なくなったら、ドレンつまみを確実に締付けます。



❹ エンジンオイルを交換します。
❺ ビニールなどでカバーをします。
❻ 湿気、誇りの少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

- **次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。**
- **オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。（６ヶ月に１回新しいオイルと交換）**
- **点火プラグをエンジン側にアースしないで始動グリップを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。**

3. 格　納

⚠危険 火災防止のために

◆本機にカバーをかけるときはエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにカバーをかけると火災になることがあります。

本機の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び、カバーをかけて保管します。
❶ 主クラッチレバーは《切》にして駆動ベルトの張りを解除しておきます。
❷ 日光の直射をさけて屋内で車輪に木台などを敷き、その上に本機をのせます。
❸ タイヤの空気圧を点検し、減っていれば補充します。

取扱いのポイント

- **サビの発生を防止するため塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**

4. 再使用するときは

格納後はじめて使用するときには、定期点検整備表のシーズン前点検を行った後に運転します。（39ページ参照）

不調時の処置

・不調が発生したらすぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や、調整しても再発するときは**「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」**に相談し点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて**「型式名・区分」・「機体番号」と「エンジン番号」**をお知らせください。（17ページ参照）

⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は本機を広い平坦な場所に停車し、エンジンを止め、各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーはすべて取付けてからエンジンを始動してください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❶ 燃料が入っていない。	・燃料を補給します。	42
	❷ 燃料コックレバーが《**止**》の位置になっていないか。	・燃料コックレバーを《**出**》の位置にします。	20、26
	❸ エンジン回転調整レバーの位置はよいか。	・エンジン回転調整レバーを「中間」位置にします。	20
	❹ 点火プラグが湿っている。	・チョークを《**始動**》のままにしすぎると、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外しよく乾燥させます。	45
	❺ 点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整します。 ・点火プラグのカーボンを掃除します。 ・点火プラグを新品と交換します。 使用点火プラグ NGK　BPR5ES デンソー　W16EPR-U	45
	❻ エンジンスイッチが《**停止**》になっている。	・エンジンスイッチを《**始動**》にします。	20
	❼ チョークレバーが《**運転**》になっている。	・チョークレバーを《**始動**》にし、エンジン始動後徐々に戻します。	20

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンの出力不足および自然停止	❶　エアクリーナーにゴミがつまっている。	・ろ過部を灯油で洗浄し、ろ過部から点滴しない程度に振切り、取り付けます。	44
	❷　リコイルスターターの吸気口がつまっている。	・きれいに掃除をします。	46
	❸　エンジンオイルが減っている。	・エンジンオイルを規定量補充します。 ・エンジンオイルが古くなっているときは新しいオイルと交換します。	42
	❹　エンジンの圧縮がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので**「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」**に相談してください。	―
	❺　エンジンの冷却フィンに泥などがつまっている。	・きれいに掃除をします。	―
	❻　エンジンの回転が十分あがらない。	・エンジン回転調整ケーブルを調整します。	48

2．本　機

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
主クラッチレバーを操作しても走行しない	❶　駆動ベルトが伸びてスリップしている。	・**「お買いあげいただきました販売店またはサービス指定店」**に相談してください。	47
	❷　主クラッチケーブルが伸びている。	・主クラッチケーブルを調整します。	
デフロックレバーを《入》にしてもデフロックにならない	❶　デフロックケーブルが伸びてデフロックレバーの遊びが多い。	・デフロックケーブルを調整します。	49
主クラッチレバーを操作しなくても走行する	❶　主クラッチケーブルを張りすぎている。	・主クラッチケーブルを調節します。	49
	❷　ベルトカバーの内に泥・草・石などが溜まっている。	・ベルトカバーの内を掃除します。	47

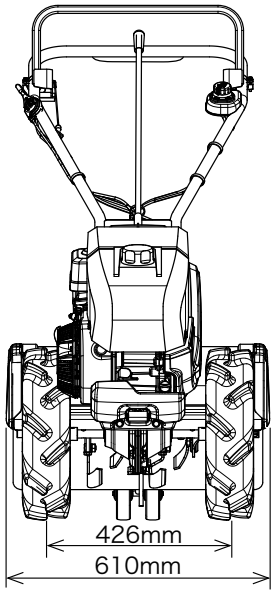
付表

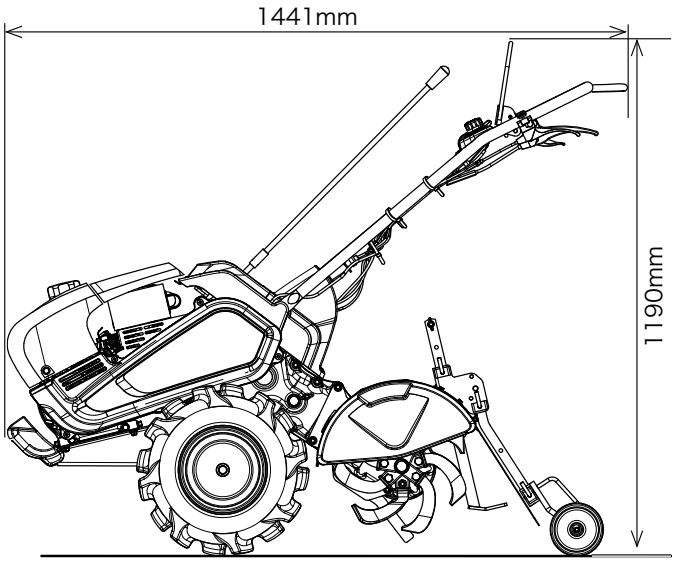
1．主要諸元

型式名		FU700	
型式		FU700JR	FU700JRM
主な機能		耕うん速度　2速	土揚げ作業
全幅×全長×全高（mm）		610×1441×1190	
重量（kg）		88	
エンジン	型式	GP200H　1/2減速タイプ	
	排気量（cc）	196	
	最大出力(kW{PS}/rpm)	4.3 {5.8} / 3600	
	定格出力(kW{PS}/rpm)	3.7 {5.0} / 3600	
耕うん幅（mm）		550	正264・550　逆314・540
ロータリー径（mm）		330	
タイヤサイズ		4.00－7	4.00－7（3.50－7 オプション）
輪距（mm）		426	426（426、374、265、213）
走行	変速	F3/R1（耕うん2速）	F2/R1
	※1 速度(km/h)	F:0.90、1.44、3.65　R:1.07	F:1.14、4.10　R:1.37
耕うん	変速	正1	正1/逆1
	※1 回転数（rpm）	225	250/352
ツメ形状		ナタ爪	ナタ爪+土揚爪
ロータリーカバー		固定	開閉
共通項目		デフロック機構　移動用尾輪 ワンタッチハンドル高さ調整：4段階 アタッチメント取り付け可　簡易畝立て	

この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

※1　走行速度、耕うん回転数は、エンジンプーリ回転数 1600rpm 時の数値です。





2. 潤滑油について

・オイルはHonda純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ名	商　品　名
Honda 純正油	Honda純正ウルトラU汎用 （SAE・10W－30）

・またはＡＰＩサービス分類ＳＥ級以上10W－30をご使用ください。

3. 付属部品一覧表

No.	部　品　名　称	個数	備　　考
①	取扱説明書	1	
②	保証書	1	
③	プラグレンチ	1	

HONDA

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、Honda 販売店
またはサービス指定店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　　０１２０－１１２０１０
（イイフレアイオ）

受付時間　　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などは変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 製品名、タイプ名
② ご購入年月日
③ 販売店名
④ フレーム号機 _____（書き込み控え欄）

FU700
30Y0J601
00X30-Y0J-6010